The 83rd Annual Conference of Japanese Educational Research Association

日本教育学会

第８３回大会　プログラム

大会校：名古屋大学 × 愛知工業大学

August 29th, 31st, September 1st

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 共催

日本教育学会

第８３回大会プログラム

期間：２０２４年8月２９日（木)、３１日（土)、9月1日（日）

会場：名古屋大学　東山キャンパス

8月２９日（木）オンライン

一般研究発表

テーマ型研究発表

ラウンドテーブル

社員総会（理事会）

３０日（金）移動日

３１日（土）ハイフレックス

課題研究Ⅰ

総会

公開シンポジウムⅠ

若手交流会

9月　1日（日）ハイフレックス

公開シンポジウムⅡ

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ

日本教育学会第８３回大会のご案内

日本教育学会第 83 回大会実行委員会
委員長　渡 邉　雅 子

日本教育学会第 83 回大会は、名古屋大学東山キャンパスを会場として、2024 年 8 月 29 日（木）、一日空けて 31 日（土）、9 月 1 日（日）にハイフレックス方式（オンラインと現地会場）で開催します。

今回の大会は、名古屋大学と愛知工業大学との合同実行委員会方式により開催し、名古屋大学大学院教育発達科学研究科が共催します。共同開催のメリットを活かしながら会場校としての役割を担ってまいります。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。 学生会員と臨時学生会員の参加費は無料となっております。学会を知る良い機会と捉え、是非ご参加下さい。

本大会も第 81 回・82 回大会にならい、一日目（8 月 29 日）はオンラインのみで「自由研究発表」（一般研究発表とテーマ別研究発表）と「ラウンドテーブル」を開催します。そして次の日（30 日）に現地（名古屋大学）への移動日を設けて、二日目（31 日）と三日目（9 月 1 日）は現地会場（対面）とオンライン配信により「課題研究」、「公開シンポジウム」と「総会」を開催いたします。

公開シンポジウムのテーマは、二日目が「教育福祉研究の課題―子ども保護と学びの保障―」で、三日目が「現場の長時間労働解消に向けて教育学が取り組むべきこと」です。このたびの大会では、自由研究発表 146 件、ラウンドテーブル 19 件、3 つの課題研究と 2 つの公開シンポジウムを予定しています。多様な領域のトピックを取り上げた発表をはじめ、英語の発表部会、日英両言語によって行われる課題研究もあり、若手研究交流会を含めてバラエティーに富んだ盛りだくさんの内容が予定されています。

今年の夏は猛暑の予報がでており、また名古屋の夏の暑さはよく知られておりますが、暑さへの注意喚起をみなさまに呼びかけながら、大会会場でもそれに対応できる工夫を行ってまいります。

また、託児所は設けませんが授乳やおむつ交換ができる場所を確保いたします。

名古屋大学では、現在中央図書館前の広場に、東海国立大学機構の研究交流拠点となる「Common Nexus」が建設中です。ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんがご理解のほど、宜しくお願いいたします。来年度には大学のランドマークである芝生の広場（グリーンベルト）が復活する予定です。

改めまして、大会実行委員一同、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

1. 開催日

2024 年 8 月 2 9 日（木）オンライン開催

8 月 31 日（土）ハイフレックス開催（対面会場：名古屋大学）

9 月 1 日（日）ハイフレックス開催（対面会場：名古屋大学）

2. 開催方法

対面とオンラインによるハイフレックス方式

＜対面会場＞　名古屋大学 全学教育棟（東山キャンパス）

＜オンライン会場＞　各部会のオンライン参加情報は大会参加申込者に 8 月 23 日（金）にご案内します。

3. 日程

4. 実行委員会および連絡先

委員長：渡邉雅子（名古屋大学）

事務局長：吉川卓治（名古屋大学）　事務局次長：石井拓児（名古屋大学）

事務局員：小長井晶子（名古屋大学）　坂本將暢（名古屋大学）　丸山和昭（名古屋大学）

委員：生澤繁樹（名古屋大学）　内田良（名古屋大学）　川口洋誉（愛知工業大学）　河野明日香（名古屋大学）　草彅佳奈子（名古屋大学）　小出禎子（愛知工業大学）　柴田好章（名古屋大学）　神内陽子（名古屋大学）　高橋まりな（名古屋大学）　中嶋哲彦（愛知工業大学）　南部初世（名古屋大学）　服部美奈（名古屋大学）　松本麻人（名古屋大学）

連絡先：〒464-8601　愛知県名古屋市千種区不老町　名古屋大学大学院教育発達科学研究科
日本教育学会第 83 回大会実行委員会事務局
メールアドレス：jera83@educa.nagoya-u.ac.jp

目次

大会案内

Ⅰ　インフォメーション
1. 参加方法・参加費等
2. 自由研究発表(一般研究発表およびテーマ型研究発表)
3. ラウンドテーブル
4. 若手交流会
5.『発表要旨集録』
6. 昼食
7. 懇親会
8. クローク
9. 託児支援
10. Wi-fi の利用
11. 自由研究発表・ラウンドテーブルの関係者の皆様へ
12. 交通アクセス
13. 大会会場一覧

Ⅱ　大会日程

Ⅲ　プログラム

Ⅳ　学会事務局からのお知らせ

Ⅰ　インフォメーション

1．　参加方法・参加費等

大会へは、2024 年 7 月 10 日～8 月 20 日の間に、大会 HP に掲載する「参加申込フォーム」よりご登録いただき、下記の大会参加費をお支払いいただくことでご参加いただけます。参加手続きにつきましては、日本教育学会第 83 回大会 HP の「参加申込」ページ（https://jera-taikai.jp/jera83/participation/）をご確認ください。

一般会員：2,000 円
学生会員：無料
臨時一般会員：2,200 円（税込み）
臨時学生会員：無料
※公開シンポジウムⅠ・Ⅱのみの参加は参加費無料
※公開シンポジウムのみへの参加希望者は、2024 年 7 月 10 日以降に専用申込ページより参加登録をしていただきます（大会 HP をご参照ください）。

2．　自由研究発表（一般研究発表およびテーマ型研究発表）

発表時間は、一般研究発表【A】、テーマ型研究発表【B】ともに一件当たり次の通りです。

個人研究発表　発表時間 25 分＋質疑 5 分
共同研究発表　発表時間 50 分＋質疑 10 分
※共同研究であっても口頭発表者が 1 名の場合の発表時間は、個人研究発表と同じです。
※発表の取消が生じた場合でも、発表時刻および発表順は変更しません。

3．　ラウンドテーブル

ラウンドテーブルは、会員の創意で自主的に企画される研究交流・意見交換の機会です。
8 月 29 日（木）の 15:30～17:30 に開催します。19 件の企画が予定されています。

4．　若手交流会

8 月 31 日(土)の 18:15～19:45 に対面およびオンライン(Zoom)のハイフレックス形式で開催します。

5．『発表要旨集録』

『発表要旨集録』の印刷・発行はしませんが、大会参加申込を 8 月 20 日までに完了していただいた方に、オンライン大会会場への参加と『発表要旨集録』閲覧に必要なパスワードを 8 月 23 日に送付させていただく予定です。

６．　昼食

8 月 31 日（土）および 9 月 1 日（日）とも、大学内の生協食堂は休業しております。学会会場から徒歩 5 分圏内にスターバックス（中央図書館内）とコンビニエンスストア（会場前）がございます。また、学外にもいくつかの飲食店が存在しますが、徒歩で 5 分から 15 分程度要します。

７．　懇親会

開催しません。ご自由に情報交換や親睦会を行っていただければと思います。

8.　クローク

受付にてご案内いたします。

9.　託児支援

大会 2 日目または 3 日目に開催される課題研究、シンポジウム、若手交流会において、司会、登壇者、指定討論者、話題提供者として現地で参加される方につきましては、当該企画に参加するための託児サービス（自宅でヘルパーを依頼する場合も含む。）を利用した際の費用の半額（1 日あたり上限 5,000 円）を、実行委員会で負担させていただきます。7 月 30 日までに実行委員会にご連絡ください。なお現地では託児場所は用意しておりませんが、授乳等に必要なスペースはご用意いたしますので、受付にてお問い合わせください。

10.　Wi-fi の利用

名古屋大学構内では、eduroam JP をご利用いただけます。事前にユーザ名やパスワードをご確認ください。eduroam の利用アカウントをお持ちでない方は、大会期間中、名古屋大学内で利用できる Wifi 環境のゲストアカウントを発行し、受付でお渡しいたします。必要な方は、事前申し込みをしてください。

【申込期間】

2024 年 7 月 22 日（月）～8 月 23 日（金）

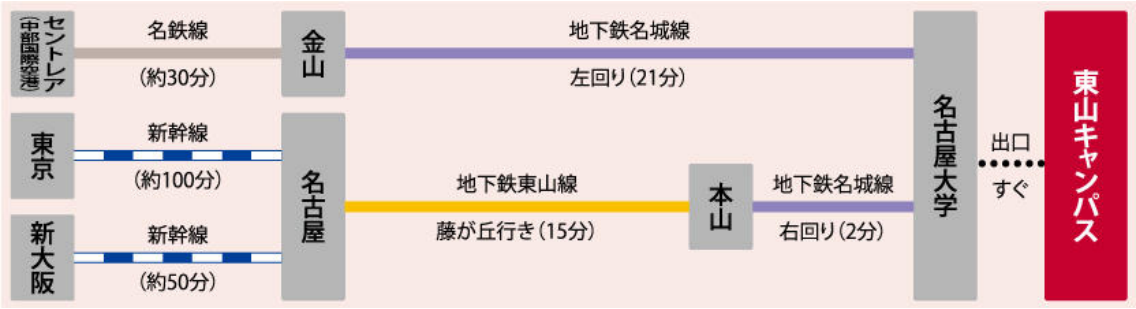
【URL】https://forms.gle/FVGU1LUSq8t4B9YM6

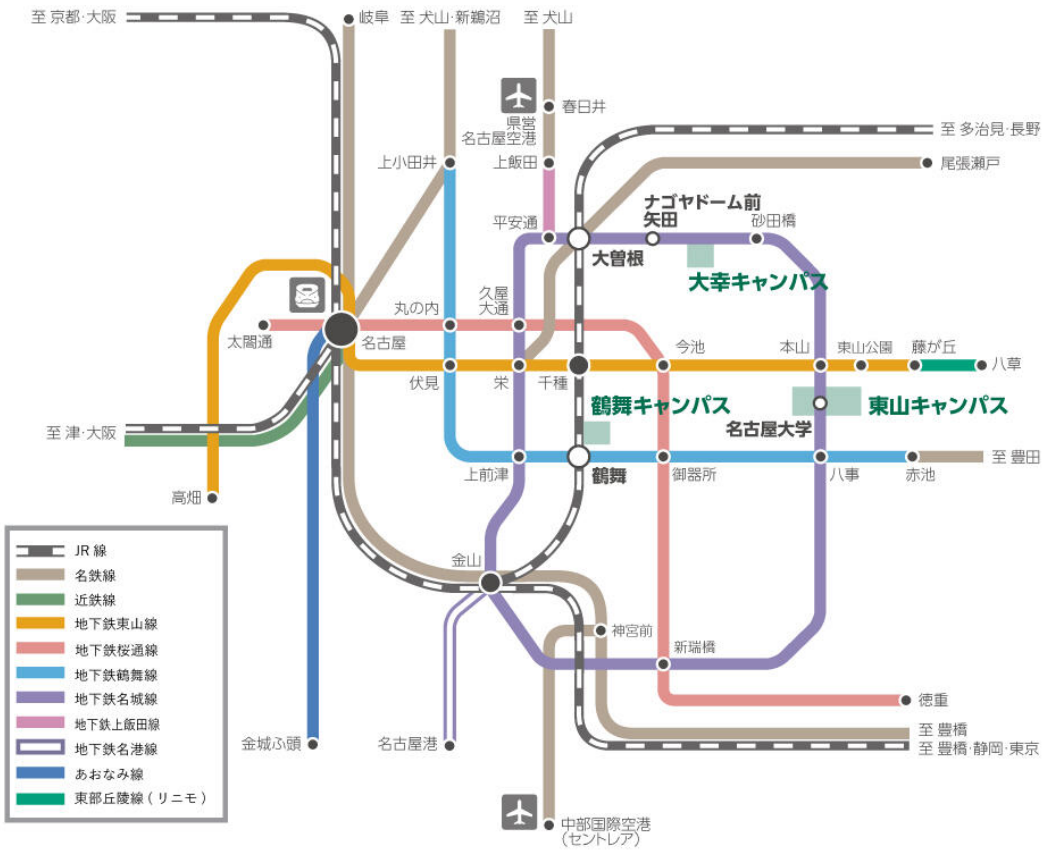
eduroam も学内 Wifi も、接続状況・通信状況が安定しない場合があります。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

11.　自由研究発表・ラウンドテーブルの関係者の皆様へ

完全オンラインでの開催となります。8 月 20 日（火）までの大会参加申込後、8 月 23 日（金）にオンライン参加のための情報をご案内させていただきます。各部会の開始時刻 20 分前にオンライン部会にお入り下さい。

12.　交通アクセス



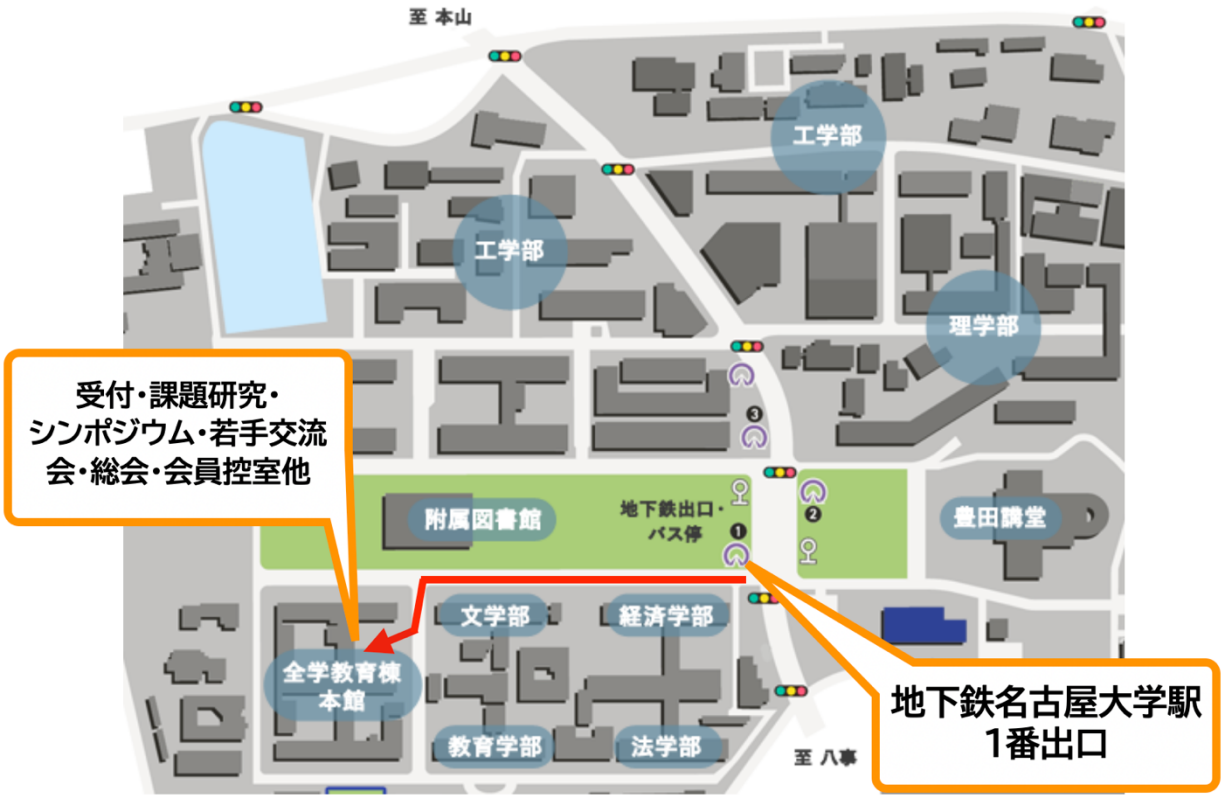


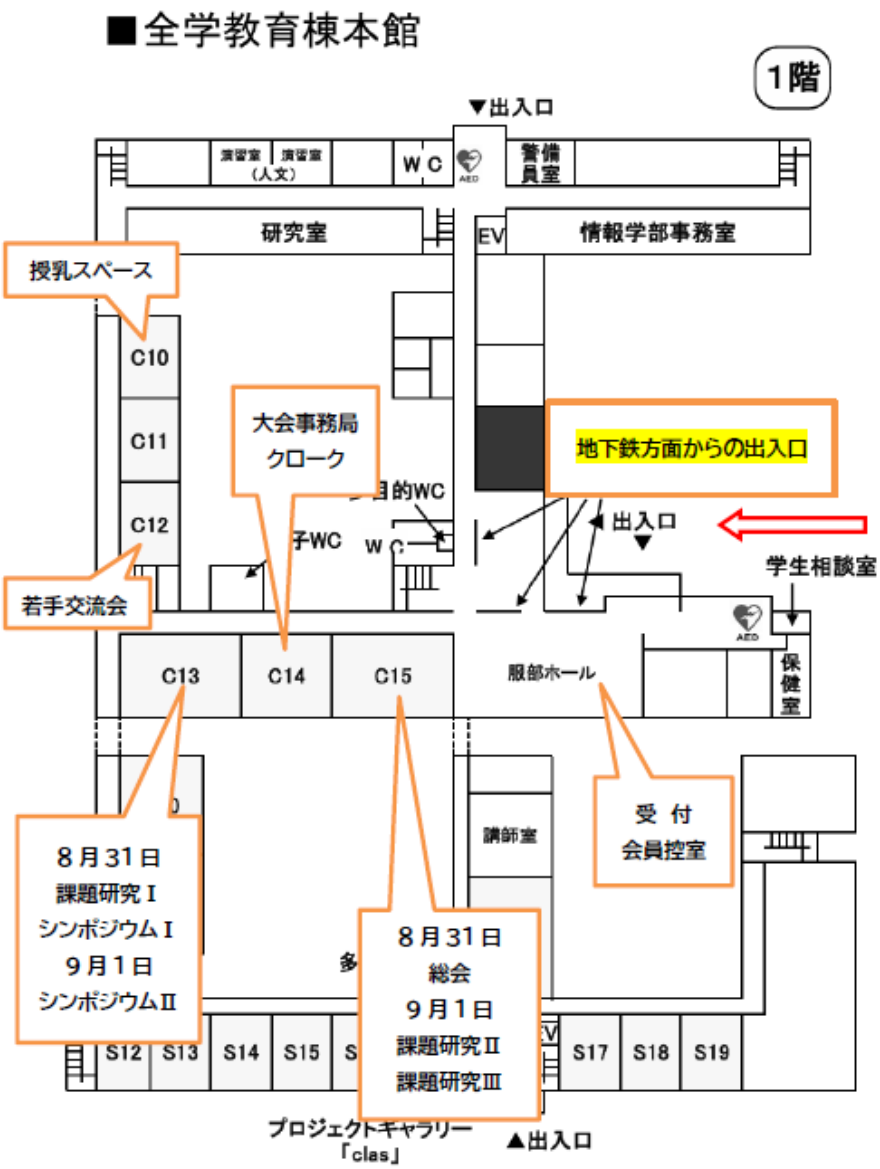
13.　大会会場一覧

＊8 月 31 日（土）と 9 月 1 日（日）に実施されるすべてのプログラム（課題研究・シンポジウム・若手交流会・総会ほか）は名古屋大学の全学教育棟（教養教育院）で開催します。

＊大会受付も全学教育棟（教養教育院）に設置いたします。

＊全学教育棟（教養教育院）へは地下鉄名城線名古屋大学駅を下車、1 番出口からお越しください。




■全学教育棟本館
1階
▼出入口
演習室（人文）
演習室
W C
AED
警備員室
研究室
EV
情報学部事務室
授乳スペース
C10
C11
C12
大会事務局
クローク
地下鉄方面からの出入口
目的WC
子WC
W C
出入口
学生相談室
若手交流会
AED
C13
C14
C15
服飾ホール
保健室
講師室
受　付
会員控室
8月31日
課題研究Ⅰ
シンポジウムⅠ
9月1日
シンポジウムⅡ
8月31日
総会
9月1日
課題研究Ⅱ
課題研究Ⅲ
S12
S13
S14
S15
S17
S18
S19
プロジェクトギャラリー
「clas」
▲出入口

<table>
<tr><td rowspan="4">8 月 29 日(木)</td><td>9:00-12:00
自由研究発表</td><td colspan="2" rowspan="4">オンラインのみ</td></tr>
<tr><td>12:30-15:00
自由研究発表</td></tr>
<tr><td>15:30-17:30
ラウンドテーブル</td></tr>
<tr><td>17:45-19:45
社員総会(理事会)</td></tr>
<tr><td rowspan="6">8 月 31 日(土)</td><td>9:00-　受　付</td><td>全学教育棟玄関ホール</td><td rowspan="9">大会事務局・クローク
【C14 教室】

会員控室
【服部ホール】

授乳スペース
【C10 教室】</td></tr>
<tr><td>9:30-12:00
課題研究Ⅰ</td><td>【C13 教室】</td></tr>
<tr><td>13:30-14:45
総会</td><td>【C15 教室】</td></tr>
<tr><td>15:00-18:00
シンポジウムⅠ</td><td>【C13 教室】</td></tr>
<tr><td>18:15-19:45
若手交流会</td><td>【C12 教室】</td></tr>
<tr><td rowspan="3">9 月 1 日(日)</td><td>9:00-12:00
シンポジウムⅡ
課題研究Ⅱ</td><td>【C13 教室】
【C15 教室】</td></tr>
<tr><td>13:00-16:00
課題研究Ⅲ</td><td>【C15 教室】</td></tr>
</table>

Ⅱ 大会日程

8月29日（木）

自由研究発表　９：００～１２：００

	テーマ	掲載頁
A-1-1	教育理論・思想・哲学①	16
A-1-2	教育理論・思想・哲学②	17
A-2-1	教育史①	18
A-2-2	教育史②	19
A-3	学校制度・経営	20
A-4	教育行財政・教育法	21
A-5-1	比較・国際教育①	22
A-5-2	比較・国際教育②	23
A-6-1	教育方法・教育課程①	24
A-6-2	教育方法・教育課程②	25
A-6-3	教育方法・教育課程③	26
A-8	教科教育	27
A-9	発達と教育	28
A-11	幼児教育・保育	29
A-12-1	初等・中等教育①	30
A-12-2	初等・中等教育②	31
A-13	高等教育・中等後教育	32
A-14-1	教師教育①	33
A-14-2	教師教育②	34
A-15	社会教育・生涯学習	35
A-18	特別支援教育・特別ニーズ教育	36
B-9	Educational Issues from Global Perspectives	37

自由研究発表　１２：３０～１５：００

	テーマ	掲載頁
B-1	市民性教育の課題	38
B-2-1	学校のリアリティと教育改革の課題①	39
B-2-2	学校のリアリティと教育改革の課題②	40
B-3	ジェンダーと教育	41

B-4	教員政策	42
B-5	戦後教育史の諸問題	43
B-6	教育学の問い直し	44
B-7-1	子ども問題と教育・福祉①	45
B-7-2	子ども問題と教育・福祉②	46
B-13-1	地域コミュニティと教育①	47
B-13-2	地域コミュニティと教育②	48
B-14	学習者のエージェンシーとコンピテンシー	49
B-15	教育変革と教師のエージェンシー	50

ラウンドテーブル　１５：３０～１７：３０

	テーマ	掲載頁
1	「多様な教育機会」からの規範的／経験的な問い ―公教育の再編と子どもの福祉（その４）―	51
2	続・教員への道　―教員検定試験研究の現代的意義をめぐって―	52
3	サドベリー教育からみる「多様な教育」の可能性と課題 ―東京サドベリースクールの実践に着目して―	53
4	シン読解力：学習言語の読解力が学力を左右する	54
5	教育における多様性、公正、包摂を考える ―OECD 報告書『公正と包摂をめざす教育』を手がかりに―	55
6	社会的公正に向けた教育データサイエンス ―全国学力・学習状況調査実施、PISA、TIMSS のデータを活用して―	56
7	近年の小説に見られる子どものエージェンシーの両義性 ―『透きとおった糸をのばして』（2000 年）から『成瀬は天下を取りにいく』（2023 年）まで―	57
8	子どもの生活・発達への気候変動の影響と教育学の課題	58
9	「排除と包摂」をめぐる対話 ―人間関係学・重症児者教育学・障害者教育史学の視点から―	59
10	デジタル庁は教育 DX の政策過程をどう変えたのか？（How does the new Digital Agency change education policymaking on digital transformation?)	60
11	大学教育における Diversity, Equity, and Inclusion 研修の開発と実践 ―ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の観点から―	61
12	アメリカにおける教職の専門職性の歴史的展開と現代的課題	62

13	教育の情報化と学校図書館 ―情報の意味を理解し活用するための学校図書館の役割とは―	63
14	総合学習実践の形成と発展に関する考察 ―和光小学校、和光鶴川小学校での実践を手がかりに―	64
15	ポスト社会主義諸国における教育改革動向 ―STEM/STEAM/STREAM 教育に着目して―	65
16	災害時の子ども支援の取り組み ―能登半島地震を中心に―	66
17	コルチャック『子どもをいかに愛するか(家庭の子ども編)』を読む ―コルチャック子育て・教育学テキストの検討―	67
18	「学習指導要領体制」の構造的変容に関する国際比較調査研究の総括	68
19	改めて問われるデジタル教育の有効性 ―Post コロナにおける PISA2022・ユネスコの動向―	69

社員総会（理事会）　１７：４５～１９：４５

Ⅱ 大会日程

8月31日（土）

課題研究Ⅰ　９：３０～１２：００

	テーマ	掲載頁
	AI の利活用社会における教育的価値―言語教育を中心に―	71

総会　１３：３０～１４：４５

公開シンポジウムⅠ　１５：００～１８：００

	テーマ	掲載頁
	現場の長時間労働解消に向けて教育学が取り組むべきこと	73

若手交流会　１８：１５～１９：４５

	テーマ	掲載頁
	自分がなりたい研究者像を描こう ―early career から middle career への歩み―	74

9月1日（日）

公開シンポジウムⅡ　９：００～１２：００

	テーマ	掲載頁
	教育福祉研究の課題：子ども保護と学びの保障	78

課題研究Ⅱ　９：００～１２：００

	テーマ	掲載頁
	Social Justice and Equity in Education 教育における社会正義と公正性	79

課題研究Ⅲ　１３：００～１６：００

	テーマ	掲載頁
	なぜ、日本の公教育は、不自由で非包摂的なのか？	81

プログラム　第一日

８月２９日（木）

一般研究発表

テーマ型研究発表

ラウンドテーブル

社員総会（理事会）

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【一般　A-1-1】　教育理論・思想・哲学①

司会：伊藤　博美（椙山女学園大学）
児島　博紀（富山大学）

９：００～９：３０　養育水準の保障を目的とした家族への国家関与の検討
―親の権利をめぐる D. アーチャードと M. ミジリーの論争を通じて―
〇石鍋　杏樹（筑波大学大学院学生）

９：３０～１０：００　教育正義における現実の位置づけ
〇大野　孝太（名古屋大学大学院学生）

１０：００～１０：３０　自由意志懐疑論と教育における自由
〇島本　篤（東京大学大学院）

１０：３０～１１：００　本文と余白の弁証法
―マキシン・グリーンによるアートの公共性＝周縁性論について―
〇桐田　敬介（武蔵野学院大学）

１１：００～１１：３０　ガレス・マシューズの「子ども期の哲学」の理論と実践
―マシューズの作成した教材に着目して―
〇長谷川　真也（東京大学大学院学生）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【一般　A-1-2】教育理論・思想・哲学②

司会：河野　桃子（日本大学）
関根　宏朗（明治大学）

９：００～９：３０　西田哲学と人格主義教育の影響関係への考察
―信濃哲学会、初代代表守屋喜七の教育論を参考に―
〇本郷　直人（慶應義塾大学大学院学生）

９：３０～１０：００　形の変化と持続
―三木清における習慣と技術をめぐる問題構制―
〇川上　英明（山梨学院短期大学）

１０：００～１０：３０　言語教育における聴覚
―ヘルダーの感覚論をもとに―
〇大保　瑶輔（慶應義塾大学大学院学生）

１０：３０～１１：００　日本のドイツ教育思想史研究における研究不正と研究倫理
〇松井　健人（東洋大学）

１１：００～１１：３０　エリク・H・エリクソンとアメリカ人類学
―アイデンティティ概念の成立をめぐって―
〇濵本　潤毅（東京大学大学院）

１１：３０～１２：００　討論

Ⅲ プログラム

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【一般　A-2-1】　教育史①

司会：釜田　史（愛知教育大学）
足立　淳（朝日大学）

９：００～９：３０	1889 年にカリフォルニアで日本人の華僑差別に反対した竹川藤太郎 ―その文章表現に、故郷・山梨の教育と地域性の影響を読む― 〇岡本　洋之（兵庫大学）
９：３０～１０：００	1900 年代における師範学校学科課程の模索 ―師範学校学科程度取調から師範学校教授要目の訓令化まで― 〇白石　崇人（広島大学）
１０：００～１０：３０	創設期池袋児童の村小学校における教師のカリキュラム開発能力形成 〇香山　太輝（福井大学）
１０：３０～１１：００	第三次「文検」研究（1） ―高等学校高等科教員検定制度史研究の課題と方法― 〇丸山　剛史（宇都宮大学） 亀澤　朋恵（高田短期大学） 惟任　泰裕（大阪成蹊大学） 宇賀神　一（西九州大学）
１１：００～１１：３０	昭和戦前期の高等女学校生徒の有する多様な「学習・生活・健康等の困難」の教育史的検討 〇石井　智也（兵庫教育大学） 髙橋　　智（日本大学）
１１：３０～１２：００	討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～11:30

【一般　A-2-2】　教育史②

司会：高木　　雅史（中央大学）
山﨑　由可里（和歌山大学）

９：００～９：３０　1950 年代日本の中学校における職場実習
〇増田　涼太（東京大学大学院学生）

９：３０～１０：００　教育諸条件の改善と学力向上
―戦後の「地方学力テスト」による調査研究の歴史―
〇北野　秋男（日本大学）

１０：００～１０：３０　「能力主義宣伝号」の言説空間
―「能力主義」という言葉で何が語られていたのか―
〇樋口　太郎（大阪経済大学）

１０：３０～１１：００　障害児の普通学校就学運動における子どもの権利と親の立場
―「障害者の教育権を実現する会」の運動に焦点を当てて―
〇末岡　尚文（山梨学院短期大学）

１１：00～１１：３０　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～11:30

【一般　A-3】　学校制度・経営

司会：柏木　智子（立命館大学）
前原　健二（東京学芸大学）

９：００～９：３０	中国の大都市部における教育格差是正のための学校間連携施策の実態と課題 ―上海市と北京市にある 2 つの公立学校教育集団についての事例分析に基づいて― 〇張　揚（北海道大学大学院）
９：３０～１０：００	苛烈な受験環境が中高生のいじめに対する認識に及ぼす影響 ―中国の N 市の 2 つの学校での調査事例より― 〇呉　凡（北九州市立大学）
１０：００～１０：３０	公立高校における制服見直しの取り組みの中で生徒の自主性はどう育まれるか 〇宇野　由紀子（愛知大学）
１０：３０～１１：００	多職種協働下での教師のゲートキーピング 〇保田　直美（大阪成蹊大学）
１１：００～１１：３０	討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【一般　A-4】　教育行財政・教育法

司会：谷口　　聡（中央学院大学）
武井　哲郎（立命館大学）

９：００～９：３０　行政機関をつなぐ、そして行政機関と学校を弾力的につなぐ一つの実践報告
―組織を越えた県外視察や交流セッション、そして研修コンシェルジュの取組み―
〇清川　亨（福井大学教職大学院）

９：３０～１０：００　政令市議会議員の政策関心の中での教育政策
―一般質問の量的テキスト分析に基づいて―
〇櫻井　直樹（放送大学）
阿内　春生（横浜市立大学）

１０：００～１０：３０　自治体独自カリキュラムの展開とゆくえ
〇押田　貴久（兵庫教育大学）

１０：３０～１１：００　自治体による英語教員研修の地域差
―質問紙調査に基づく全国的動向の分析―
〇青田　庄真（茨城大学）

１１：００～１１：３０　2006 年教育基本法第２条第１号の理念とその制定経緯から見る教育目標の法定化
―「生きる力」政策における「知・徳・体」の枠組みに着目して―
〇榎本　由里子（北海道大学大学院学生）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-5-1】　比較・国際教育①

司会：竹熊　尚夫（九州大学）
伊井　義人（大阪公立大学）

９：００～９：３０	タイ北部国境・山岳地帯の学校教育 ―教員への聞き取り調査結果― 〇牧　貴愛（広島大学大学院）
９：３０～１０：００	卓越性と公平性から考える外国人児童生徒のキャリア教育 ―韓国の事例に焦点をあて― 〇金　美連（熊本学園大学）
１０：００～１０：３０	中央アジア諸国における中等職業教育改革の現状と課題 ―SDGs4,5,8 達成の視点から― 〇タスタンベコワ　クアニシ（筑波大学）
１０：３０～１１：００	モンゴルにおける日本型授業研究の展開過程に関する再検討 〇ノルジン　ドラムジャブ（名古屋大学研究員）
１１：００～１１：３０	ニュージーランド全国教育修了資格（NCEA）の改革の方向性 ―ナショナルカリキュラムとの関係― 〇奥田　久春（三重大学）
１１：３０～１２：００	討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-5-2】　比較・国際教育②

司会：佐藤　　仁（福岡大学）
佐藤　裕紀（新潟医療福祉大学）

９：００～９：３０　アメリカにおける大学教員資格論の展開に関する考察
―1910-20 年代のアクレディテーション論議に着目して―
〇吉田　翔太郎（山梨大学）

９：３０～１０：００　60 周年間近の米国「初等中等教育法（ESEA）」に関する考察
―連邦政府の学力格差是正策の限界と課題に着目して―
〇吉良　直（東洋大学）

１０：００～１０：３０　語りから紡ぎ出すフィンランドの「教育における平等」概念の実相
〇渡邊　あや（津田塾大学）

１０：３０～１１：００　ポルトガルにおける移民の教育格差
〇二井　紀美子（愛知教育大学）

１１：００～１１：３０　異文化間教育としてのインクルーシブ教育に関する教員研修
―イタリア・ボローニャ地域の事例から―
〇杉野　竜美（神戸医療未来大学）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～11:30

【一般　A-6-1】　教育方法・教育課程①

司会：　庄井　良信（藤女子大学）
　　杉本　憲子（茨城大学）

９：００～９：３０　道徳教育論における「知ること以外の力」の射程
〇山岸　賢一郎（福岡大学）

９：３０～１０：００　教育化(Pädagogisierung)はどう語られてきたのか
―ドイツ語圏における議論の問題史的整理―
〇田中　怜（筑波大学）

１０：００～１０：３０　「巨摩中教育」における表現力の形成
―歌唱と作文との連関―
〇吉村　敏之（宮城教育大学）

１０：３０～１１：００　学校行事において発生しうるいじめとその予防方法に関する一考察
〇日野　陽平（大阪大学大学院）

１１：００～１１：３０　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～11:30

【一般　A-6-2】　教育方法・教育課程②

司会：森　　久佳（京都女子大学）
二宮　衆一（和歌山大学）

９：００～９：３０　モンゴルの公教育におけるリテラシー教育
―書くことの育成―
〇ビャムバスレン　エンフゲレル（東海国立大学機構）

９：３０～１０：００　普通科高校のカリキュラムにおける教科・探究・教科等横断型学習の構成
―現状と課題―
〇高橋　亜希子（南山大学）
細尾　　萌子（立命館大学）
渡邊　　あや（津田塾大学）

１０：００～１０：３０　総合的な学習の時間の取組状況に関する実証的研究
―生徒の自己評価に焦点を当てて―
池田　和正（宮城県仙台第三高等学校）
〇清水　禎文（宮城学院女子大学）

１０：３０～１１：００　大学教育におけるソーシャルエモーショナルラーニング(SEL)の実践：英語科目での事例
〇赤羽　早苗（東京工業大学）

１１：００～１１：３０　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-6-3】　教育方法・教育課程③

司会：田中　　伸（岐阜大学）
細川　和仁（秋田大学）

９：００～１０：００	「AI に教える」社会科授業づくりのアクション・リサーチ ―ポスト現象学に基づく「技術」への反省的プロセスを踏まえて― 〇馬場　大樹（鳴門教育大学） 〇呉　　文慧（田園調布学園大学）
１０：００～１０：３０	Society 5.0 を生きる子供たちに必要な小学校英語教育に対する一提言 ―逆向き設計に基づき、求められるべき言語活動と教材について― 〇藤居　真路（九州ルーテル学院大学）
１０：３０～１１：００	教室における民主的な公共圏と文化領域 〇金田　裕子（宮城教育大学）
１１：００～１１：３０	日記指導における Thinking at the Edge の援用 〇海老澤　佳輝（日本女子大学附属豊明小学校）
１１：３０～１２：００	討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～11:30

【一般　A-8】　教科教育

司会：竹川　慎哉（愛知教育大学）
丹下　悠史（愛知東邦大学）

９：００～９：３０	生成ＡＩは外国人の子どもの言語の壁をどこまで打ち破れるか ―算数・数学授業での実践を通して― 〇黒田　恭史（京都教育大学）
９：３０～１０：００	初期琉球政府の英語教育構想 ―小学校および中学校の基準教育課程より― 〇杉山　悦子（四国大学）
１０：００～１０：３０	数学授業改善に向けた教師と研究者の探究過程 ―Ｉ・ホーン（Ilana Horn）による中等数学教師の学習の理論化と介入のデザインを手がかりとして― 〇小池　貴博（東京工業大学大学院学生）
１０：３０～１１：００	道徳教育における生き方の追求についての検討２ ―仏教者が自己内に据えた対話者を手掛かりに― 〇安部　孝（名古屋芸術大学）
１１：００～１１：３０	討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～11:30

【一般　A-9】　発達と教育

司会：藤岡　恭子（岐阜協立大学）
古里　貴士（東海大学）

９：００～９：３０　重度障害当事者のライフヒストリーからみる〈ヨコへの発達〉
―入所施設から地域生活への移行プロセスに着目して―
〇垂髪　あかり（鳴門教育大学大学院）

９：３０～１０：００　読書活動経験の差が自己認識に及ぼす影響
―調査データからの考察―
〇腰越　滋（東京学芸大学）

１０：００～１０：３０　乳幼児期における社会性の発達
―保育の中での絵本の読み聞かせ場面で見られる子どもの姿―
〇新居　直美（東京立正短期大学）

１０：３０～１１：００　現代社会の危機と子ども・若者の”生きづらさ”について
―どの子にも豊かな遊びと子ども期の保証を―
〇前島　康男（元東京電機大学）

１１：００～１１：３０　討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【一般　A-11】　幼児教育・保育

司会：豊田　和子（名古屋柳城短期大学）
青山　佳代（名古屋柳城女子大学）

９：００～９：３０　多文化共生保育と伝統色彩文化
―日本と韓国の比較を通して―
〇早川　礎子（日本ウエルネススポーツ大学留学生別科）

９：３０～１０：００　仙田満の子どものあそび空間論から抽出される保育環境デザイン方略
〇吉田　直哉（大阪公立大学）

１０：００～１０：３０　森のようちえん卒園児の追跡調査(1)
〇近藤　剛（鳥取短期大学）

１０：３０～１１：００　少子化社会対策における子育て支援言説
―2000年代前半を中心に―
〇久保田　健一郎（大阪国際大学短期大学部）

１１：００～１１：３０　「背中の保育」の実践は日本の保育者にどう捉えられるのか？
―乳児に対して保育士が背中を用いるアプローチをめぐる語りから―
〇中坪　　史典（広島大学大学院）
水野　佳津子（佼成育子園）
肥田　　武　（一宮研伸大学）
加藤　　望　（名古屋学芸大学）
内田　　千春（東洋大学）
ポーター　倫子（北陸学院大学）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～11:30

【一般　A-12-1】　初等・中等教育①

司会：丸山　和昭（名古屋大学）
上地　香杜（静岡大学）

９：００～９：３０　学校運営への生徒の参加と授業秩序
―TALIS2018 の分析から―
〇加藤　一晃（名古屋芸術大学）

９：３０～１０：００　児童生徒の不登校に繋がる心因的要因に対する客観的評価の試み
―生理学的指標を用いて―
〇川畑　駿太郎（中部大学大学院学生）
平手　裕市（中部大学）
中井　浩司（中部大学）
毛利　空広（中部大学）

１０：００～１０：３０　不登校支援の実践と課題
―教育支援センターにおける子どもの「選択」に着目して―
〇別府　崇善（東京大学大学院学生）

１０：３０～１１：００　いじめ傍観者を減ずる有効な施策とは？
―北欧のいじめ対策の現状から―
〇浅田　　瞳（京都文教大学）
原　　清治（佛教大学）
山内　乾史（佛教大学）

１１：００～１１：３０　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-12-2】初等・中等教育②

司会：北島　信子（同朋大学）
山川　法子（愛知大学）

９：００～１０：００　公共的理由の交換・検討プロセスとしてのグループ・モデレーション
―北陸３県の高校での実践展開と理論的課題―
〇遠藤　貴広（福井大学）
〇増田　美奈（富山大学）
〇本所　　恵（金沢大学）

１０：００～１０：３０　郷土における社会認識の成立過程にみられる諸概念関連構造の差異と変容の究明２
―郷土における社会認識の個人間差異―
〇飯島　敏文（大阪教育大学）

１０：３０～１１：００　農業体験学習はどのように登場したのか
―1950-1970 年代までの農業体験学習に関する政策的・研究的議論の歩み―
〇渡邉　綾（一橋大学大学院）

１１：００～１１：３０　紙面レイアウトの学習促進作用の日米比較と論点整理
―縦書き横書き文化が読書推進・学校図書館活用に与える影響―
〇前田　稔（東京学芸大学）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 24 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-13】　高等教育・中等後教育

司会：五島　敦子（南山大学）
白川　優治（千葉大学）

９：００～９：３０	教育現場における生徒と教師の共創的相関関係の構築の重要性と課題 ―相互性の原理を基盤とした関係性づくり― 〇加藤　美穂（学校法人　郁文館夢学園）
９：３０～１０：００	大学教育における社会的学習の効果と生涯学習プラットフォーム構築の意義 ―東北大学初年次必修科目での「春セミ」実践報告― 〇佐藤　智子（東北大学）
１０：００～１０：３０	大学等に進学した貧困・生活困難層の若者の生活と仕事 〇三浦　芳恵（東京都立大学特任研究員）
１０：３０～１１：００	修学支援新制度が大学等への進路選択に及ぼす影響 ―島根県内高校生・大学生等の意識調査― 〇川内　紀世美（大阪健康福祉短期大学）
１１：００～１１：３０	米国高等教育における反 DEI の動向 ―諸州政府による法制化と大学による対応― 〇福留　東土（東京大学大学院）
１１：３０～１２：００	討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-14-1】　教師教育①

司会：藤井　基貴（静岡大学）
草原　和博（広島大学）

９：００～９：３０　教える専門家から学びの専門家への変容
―教師のリフレクティビティに着目して―
〇草彅　佳奈子（名古屋大学）

９：３０～１０：００　「専門家学習共同体」を構築するための教師の協働に関する考察
―「専門性開発(professional development)」の研究動向との関連に着目して―
〇織田　泰幸（三重大学）

１０：００～１１：００　英米の教師教育における EdD の位置づけと役割の変遷
〇冨田　福代（岐阜聖徳学園大学非常勤講師）
〇今泉　友里（茨城大学）

１１：００～１１：３０　日本の教育界におけるルソーの援用の特殊性
―「子どもの発見」言説の発生と定着の過程―
〇冨田　晃（弘前大学）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　9:00～12:00

【一般　A-14-2】　教師教育②

司会：吉田　成章（広島大学）
鈴木　悠太（東京工業大学）

９：００～９：３０　米国における社会正義を志向する教師教育の研究動向
―Critical Professional Development の理論について―
〇清水　広平（北海道大学大学院学生）

９：３０～１０：００　教員養成カリキュラムを問い直す
―近代教員養成制度導入期に着目して―
〇濵﨑　未育（明治大学大学院学生）

１０：００～１０：３０　教育実習生はいつ帰りたいのか
―退校時間をめぐる認識の違いに着目して―
〇髙橋　俊樹（名古屋大学大学院学生）

１０：３０～１１：００　教職志望学生における子どもたちの「即興的なことば」との出会いと応答
―子どもたちとのインプロ（即興演劇）実践とその省察をめぐって―
〇園部　友里恵（三重大学大学院）

１１：００～１１：３０　教育実習生を指導する学校現場の教師教育者の資質能力とは何か
―日本と英国の先行研究の検討―
〇田中　里佳（三重大学）

１１：３０～１２：００　討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～11:30

【一般　A-15】　社会教育・生涯学習

司会：松田　　武雄（名古屋大学名誉教授）
河野　明日香（名古屋大学）

９：００～９：３０　トランスナショナルな生涯学習を通じた移民の機会創出
―日本に進出しているブラジルの通信制大学を事例に―
〇吉岡（ヨシイ）　ラファエラ（東京都立大学）

９：３０～１０：００　1970年代以降の青少年地域活動（ふるさと運動）に関する考察
〇杉浦　ちなみ（法政大学）

１０：００～１０：３０　「学校と学習塾の連携」における地域住民の「学習」と「協働」
〇鈴木　繁聡（名古屋大学）

１０：３０～１１：００　自治公民館における教育性のゆくえ
―「倉吉方式」再編下での全館調査を踏まえて―
〇丹間　康仁（筑波大学）

１１：００～１１：３０　討論

一般研究発表【A】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【一般　A-18】　特別支援教育・特別ニーズ教育

司会：辻　　浩（名古屋大学研究員）
丸山　啓史（京都教育大学）

９：００～９：３０	日韓保育・療育における合理的配慮の研究動向と今後の課題 〇金　仙玉（富山国際大学）
９：３０～１０：００	特殊教育から特別支援教育への転換の初期における政策案の形成 ―1990年代の障害者雇用政策をめぐる「自立・社会参加」概念の教育的解釈と官邸・政治の影響― 〇浜　えりか（名古屋大学大学院学生）
１０：００～１０：３０	「インクルーシブ教育を受ける権利」の三層モデル論 ―障害のある子どもの義務教育段階の学びの場に着目して― 〇濱元　伸彦（関西学院大学）
１０：３０～１１：００	「共生」の教育創造に向けた〈関係形成〉〈理解・認識〉の有効性 ―篠崎恵昭の「統合教育」実践「友だち百人できるかな」を中心に― 〇金丸　彰寿（神戸松蔭女子学院大学）
１１：００～１１：３０	知的障害者の大学教育に関する研究 ―米国の事例に焦点をあてて― 〇水野　和代（日本福祉大学）
１１：３０～１２：００	討論

テーマ型研究発表【B】　8月29日（木）

8月29日（木）　9:00～12:00

【テーマ　B-9】　Educational Issues from Global Perspectives

司会：佐藤　邦政（茨城大学）
原　　圭寛（昭和音楽大学）

９：００～９：３０	Vietnamese teacher educators' internationalization involvement at different career phases: Motivations, activities, and challenges 〇ランガン　グエンティ（広島大学大学院）
９：３０～１０：００	The Impacts of Applying STEM Extracurricular Activities at the Japanese Colleges of Technology KOSEN: Qualitative Analysis of Semistructured Interviews with Students 〇 Nagwa Fekri　Rashed（金沢大学研究生）
１０：００～１０：３０	Conceptualization and Implementation of 'Teacher Educator Research': Cases of Myanmar, Singapore and Thailand 〇メイ トゥ　キョウ（広島大学）
１０：３０～１１：００	Exploring Ways to ‘Live Together’ with Others after Experiencing the Covid-19 Pandemic:　A Case Study of School Education in the Republic of South Africa 〇坂口　真康（大阪大学）
１１：００～１１：３０	An Examination of the Representation of Japan in Social Studies Textbooks in the United States　米国の社会科教科書にみる日本 〇Jason　Barrows（京都府立医科大学）
１１：３０～１２：００	討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-1】　市民性教育の課題

司会：唐木　清志（筑波大学）
北山　夕華（大阪大学）

１２：３０～１３：３０　日本の教師にとって「困難な歴史」とはどのようなものか
―アンケート調査を通して見えること―
○原口　友輝（中京大学）
○空　　健太（国立教育政策研究所）

１３：３０～１４：００　オルタナティブスクールにおける子ども中心の日常的実践
―レッジョ・エミリア教育哲学に着目して―
○敷田　佳子（大阪教育大学非常勤講師）

１４：００～１４：３０　G・ビースタへの一応答としての B・クリックの政治教育思想
○北村　佳誉（明治大学大学院学生）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～14:30

【テーマ　B-2-1】　学校のリアリティと教育改革の課題①

司会：榎　　景子（長崎大学）

亘理　陽一（中京大学）

１２：３０～１３：００　　中学生・高校生が「通ってみたい学校」
―2024 年中高生オンライン調査・中高生保護者オンライン調査の分析―
○末冨　芳（日本大学）

１３：００～１３：３０　　生成 AI による教育的判断の比較分析
―ChatGPT、Claude、Gemini、Llama 等を対象として―
○山本　宏樹（大東文化大学）

１３：３０～１４：００　　スクールロイヤーの多様化から考える教員と弁護士の関係
―学校法務の専門性をどのように導入すべきか―
○神内　聡（兵庫教育大学）

１４：００～１４：３０　　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～14:30

【テーマ　B-2-2】　学校のリアリティと教育改革の課題②

司会：奥村　好美（京都大学）
福嶋　祐貴（京都教育大学）

１２：３０～１３：００　教員養成課程の学生のニーズと人の特質を加味した FD 導入の視点
―授業 UD を記憶・「情動」・言語を視座にした高等教育の FD―
○市村　広樹（広島市立五日市観音小学校）

１３：００～１３：３０　いかにすれば特別支援教育はインクルーシブ教育になりえるのか
―国連勧告から考える日本の教育の方向性―
○村田　観弥（立命館大学）

１３：３０～１４：００　高等学校「総合的な探究の時間」運営の組織体制から見る教師間コミュニケーションの課題とは
―今、求められる「探究学習」の指導理論化―
○地蔵　繁範（広島大学大学院人間社会科学研究科（京都市立西京高等学校））

１４：００～１４：３０　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～14:30

【テーマ　B-3】　ジェンダーと教育

司会：木村　涼子（大阪大学）
土田　陽子（帝塚山学院大学）

１２：３０～１３：００　若年同性愛者の大学進学後のセクシュアル・アイデンティティの変容
―大学内外の人間関係の影響に焦点を当てて―
○島袋　海理（名古屋大学大学院学生）

１３：００～１３：３０　「ボーイッシュ」な女子のジェンダー形成
―正統性の確保と地位達成をめぐる戦略的な「男/女らしさ」の実践―
○榎本　ゆり（関西大学大学院学生）

１３：３０～１４：００　不登校生徒にとっての「学校性教育」とは何か？
―文科省「生命（いのち）の安全教育」とユネスコ「包括的性教育」の解題―
○山田　智子（佛教大学大学院学生）
原　清治（佛教大学）

１４：００～１４：３０　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-4】　教員政策

司会：　山下　晃一（神戸大学）
　　滝沢　　潤（広島大学）

１２：３０～１３：００　栄養教諭等の配置の現状と課題
―千葉県を事例として―
○広川　由子（千葉県立保健医療大学）

１３：００～１３：３０　カナダ・オンタリオ州教員協会のガバナンスは他の専門職的自己規制団体とどう異なるのか？
○平田　淳（佐賀大学）

１３：３０～１４：００　「教員不足」の歴史社会学
―日本を事例として―
○前田　麦穂（國學院大學）

１４：００～１４：３０　教職離れの分析
―大学生調査から見る学校の働き方とジェンダー―
○内田　　良（名古屋大学）
菊地原　守（名古屋大学大学院学生）
澤田　　涼（名古屋大学大学院学生）
溝脇　克弥（名古屋大学大学院学生）
藤川　寛之（名古屋大学大学院学生）
田口　愛梨（名古屋大学大学院学生）
長谷川　哲也（岐阜大学）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-5】　戦後教育史の諸問題

司会：木村　　元（青山学院大学）
本田　伊克（宮城教育大学）

１２：３０～１３：００　比江島重孝『かっぱ小僧』における民話採集と自然環境の意義
○稲井　智義（北海道教育大学）

１３：００～１３：３０　1958 年版学習指導要領における「系統主義」という空気
―戦後教育史像の再検討―
○佐藤　英二（明治大学）

１３：３０～１４：００　コア・カリキュラム研究の再課題設定
―カリキュラム概念の相・層・次元を手がかりに―
○金馬　国晴（横浜国立大学）

１４：００～１４：３０　上原専禄の大正研究と教育思想（史）研究の方法
―国民教育研究所・教育思想委員会における議論を中心として―
○桑嶋　晋平（日本女子大学）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-6】　教育学の問い直し

司会：神代　健彦（京都教育大学）
江口　　怜（摂南大学）

１２：３０～１３：００　ベジタリアン／ビーガンをめぐる教育の課題
―インタビュー調査から―
○丸山　啓史（京都教育大学）

１３：００～１３：３０　授業の分析的視点としての承認
○今野　雅典（東京大学教育学部附属中等教育学校教諭）

１３：３０～１４：００　日本戦後保守思想と教育学
○中村　優（東京大学大学院）

１４：００～１４：３０　戦後日本におけるマルクス主義・天皇（制）・宗教教育
○齋藤　崇徳（社会構想大学院大学）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-7-1】　子ども問題と教育・福祉①

司会：渡部　昭男（大阪信愛学院大学）
水谷　　勇（神戸学院大学）

１２：３０～１３：００　こども基本法と教育無償化論議
―2023 年第 212 回～2024 年第 213 回の国会審議から―
○渡部　昭男（大阪信愛学院大学）

１３：００～１３：３０　産後ケア事業と自治体施策(3)
―京都府を事例に―
○渡部（君和田）　容子（名古屋女子大学）

１３：３０～１４：００　不登校児童・生徒支援への地域学校協働活動の課題
―A 市教育支援センター教員と不登校支援団体 B 支援者のインタビューを比較して―
○新井　寛規（佛教大学大学院学生）
　原　　清治（佛教大学）

１４：００～１４：３０　「努力は報われる」という子どもの主観が学習時間に与える影響
―学年と出身階層に着目して―
○小西　凌（三重大学大学院学生）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-7-2】　子ども問題と教育・福祉②

司会：酒井　　朗（上智大学）
加藤　美帆（東京外国語大学）

１２：３０～１３：００　学校内における居場所づくりにおける支援者の生徒に対する戦略
―《安心安全》と《傷つき》に着目した「支援の文化」の伝承過程―
○中西　美裕（大阪大学大学院学生）

１３：００～１３：３０　母子生活支援施設からみる小学校への移行
―保護者の経験と職員の支援―
○林　明子（大妻女子大学）
　酒井　朗（上智大学）

１３：３０～１４：００　子どもの学習支援・居場所支援における〈社会問題の教育化〉に関する一考察
○松村　智史（名古屋市立大学）

１４：００～１４：３０　外国にルーツをもつ子どもの「支援」をめぐる力学
○瀬戸　麗（京都大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-13-1】　地域コミュニティと教育①

司会：荻野　亮吾（日本女子大学）
安藤　聡彦（埼玉大学）

１２：３０～１３：００　地域住民等による学校運営参画の「はしご論」
―コミュニティ・スクール当事者の市民性に着目して―
○早坂　淳（長野大学）

１３：００～１３：３０　「教育コミュニティ」の概念分析に関する一考察
―池田寛の理論と実践に着目して―
○堂本　雅也（京都橘大学非常勤講師）

１３：３０～１４：００　地域学習の展開に向けた文化的・歴史的アプローチの検討
○生島　美和（帝京大学）

１４：００～１４：３０　コミュニティ・エンパワメントとしてのコミュニティ・ストーリーの再編集
―文化的記憶論における透過性概念に着目して―
○宮﨑　隆志（北海道文教大学）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-13-2】　地域コミュニティと教育②

司会：岡　　幸江（九州大学）
清水　睦美（日本女子大学）

１２：３０～１３：００　創造的交歓の場を育てる
―NHK テキストを活用したサークル活動の考察―
○畑井　克彦（(公）集団力学研究所）

１３：００～１３：３０　地域と連携した認知症支援と学校教育
―総合的な学習・探究の時間を活用したキャリア発達支援としての検討を中心に―
○山本　智子（国立音楽大学）

１３：３０～１４：００　災害によって露呈した脆弱性に抗うカリキュラム改革の意義と課題
―福島県大熊町における課題解決学習の変遷―
○吉田　尚史（山形大学）

１４：００～１４：３０　災害時の子ども支援はいかに実現しうるのか
○中丸　和（大阪大学大学院学生）
伊藤　駿（京都教育大学）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-14】　学習者のエージェンシーとコンピテンシー

司会：木村　拓也　（九州大学）
高橋　亜希子（南山大学）

１２：３０～１３：００　教育方法としての学習環境デザイン
○藤江　康彦（東京大学大学院）

１３：００～１３：３０　デジタルを用いた科学コミュニケーションがもたらす子どものエージェンシー
○末松　加奈（東京家政学院大学）
後藤　郁子（お茶の水女子大学）
井上　知香（静岡大学）

１３：３０～１４：３０　立命館学園におけるコンピテンシー策定のプロセス
―複線径路等至性アプローチの方法を手がかりに―
○西浦　明倫（学校法人　立命館)
○六車　陽一（学校法人　立命館）
○落合　弘望（学校法人　立命館）
○木村　修平（立命館大学）

１４：３０～１５：００　討論

テーマ型研究発表【B】　8 月 29 日（木）

8 月 29 日（木）　12:30～15:00

【テーマ　B-15】　教育変革と教師のエージェンシー

司会：元兼　正浩（九州大学）
後藤　郁子（お茶の水女子大学）

１２：３０～１３：００　日本人学校教員のキャリア選択
―派遣志望に至るプロセスに着目して―
○芝野　淳一（中京大学）

１３：００～１３：３０　若手保育者を含む保育者間の能動的な学び合いの場の醸成
○井上　知香（静岡大学）

１３：３０～１４：００　教師のエージェンシーを生み出す校長の形成的介入のデザイン
○玉野　麻衣（大田区立調布大塚小学校校長）
後藤　郁子（お茶の水女子大学）

１４：００～１４：３０　管理から自律へ
―働き方改善を促す学校組織文化の検討―
○野村　　駿（秋田大学）
菊地原　守（名古屋大学大学院学生）

１４：３０～１５：００　討論

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【1】「多様な教育機会」からの規範的／経験的な問い

―公教育の再編と子どもの福祉（その 4）―

企　画　者：森　　直人　（筑波大学）
報　告　者：森　　直人　（筑波大学）
　　澤田　　稔　（上智大学）
　　金子　良事　（阪南大学）

《趣　旨》

本ラウンドテーブルは、2015 年の通称「多様な教育機会確保法案」の報道とその後の事態の推移を契機として 2016 年 4 月に誕生した「多様な教育機会を考える会」（rethinking education 研究会、以下 RED 研）におけるこれまでの議論の成果を総括する企画の一環として設定される。具体的には、明石書店から刊行する予定の「シリーズ公教育の再編と子どもの福祉」の 1 巻『「多様な教育機会」をつむぐ――ジレンマとともにある可能性』と 2 巻『「多様な教育機会」から問う――ジレンマを解きほぐすために』での議論を受けて、その展開を図るものである。

RED 研は、同法案が提起した問題を広く、長期的かつ多角的な視点からとらえなおすことを目的として誕生した。教育学、社会学、社会政策・社会福祉・社会保障論など学際的な研究者のみならず、フリースクールや子どもの貧困対策などの支援の現場に携わってきた当事者・実践者・運動家らもつながり、議論を交わす集まりである。これまでに 2024 年 5 月現在で計 40 回の定例研究会を開催するほか、公開シンポジウム（2021 年）や公開ワークショップ（2020 年）、日本教育学会ラウンドテーブル（2017 年・2018 年・2023 年）などの機会にその成果の一端を発信してきた。

今回のラウンドテーブルでは、上記シリーズのうち〈研究篇〉と位置づけられた 2 巻所収の諸論考を題材に、そこにみられる議論の布置をどのようにとらえ、さらに展開していくべきか／いくことができるかについて考える。編者のひとりである森が執筆し、2 巻シリーズ全体の序章としての性格を帯びた 1 巻序章「バスに乗る――反復される対立構図を乗り越えるために」での問題提起を、各論考の著者があらためてどのように受け止めたか、逆に編者の側はそれぞれ多様な問題設定のもとで考察を展開している各論考の布置連関をどのように捉えているか、といった論点を軸に、フロアも交えて議論を交わす。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【2】続・教員への道　―教員検定試験研究の現代的意義をめぐって―

企　画　者：惟任　泰裕　（大阪成蹊大学）
司　会　者：惟任　泰裕　（大阪成蹊大学）
報　告　者：船寄　俊雄　（大阪信愛学院大学・神戸大学名誉教授）
宇賀神　一　（西九州大学）
内田　　徹　（浦和大学）
樫下　達也　（京都教育大学）
亀澤　朋恵　（高田短期大学）
疋田　祥人　（大阪工業大学）
丸山　剛史　（宇都宮大学）
蓑毛　智樹　（神戸大学大学院）
山本　朗登　（山口芸術短期大学）
指定討論者：大谷　　奨　（筑波大学）
坂口　謙一　（東京学芸大学）

《趣　旨》

本ラウンドテーブルは、「続・教員への道」と題して、この 20 年間における教員検定試験研究の展開をふまえながら、その現代的意義を問うものである。タイトルを「続」としているのは、2003（平成 15）年度の日本教育史研究会サマーセミナー「教員への道」を継承するものだからである。

このサマーセミナーの報告（『日本教育史往来』第 144 号）で船寄俊雄は、「ここ 20 年ほどの研究」が「むしろ師範学校・高等師範学校以外のルートで教員資格を取得した人たちの研究に精力が傾けられてきた」と述べ、それが「タイトルを『教員への道』とした所以」だという。当時における研究の広がりは、例えば寺﨑昌男・「文検」研究会による『「文検」の研究」』（1997 年）、および『「文検」試験問題の研究』（2003 年）の出版に象徴されるが、一方で佐々木享は「寺﨑らが『中学校高等女学校の教員免許状取得の方法の一つである試験検定』（のみを）を『文検』と称していること」に対する違和感を示した。

本ラウンドテーブルでは、このような認識を引き取りながら、戦前期の教員検定試験についてトータルな展望を試みたい。その際には「文検」の範疇に、中学校教員検定だけでなく、実業学校教員検定・高等学校高等科教員検定を入れたうえで、近年研究の進展が目覚ましい小学校教員検定についても検討の対象とする。

ただし、本ラウンドテーブルは狭い意味での「制度史」を対象とするものではない。本ラウンドテーブルの主眼は、それぞれの教員検定について、合格者のライフヒストリーや学習実態を検討し、歴史的な視座から教員としての学問的研鑽のあり方を探ることである。これらの検定試験の合格者は、いずれも独学の身であったが、学術書を原著で読みこなし、教師としての専門知を身に付けていった。その学びの姿を掘り起こすことが、冒頭に掲げた教員検定試験研究の現代的意義への一つの回答となるものと考えている。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【3】サドベリー教育からみる「多様な教育」の可能性と課題

―東京サドベリースクールの実践に着目して―

企　画　者：相田　まり　（国際学院埼玉短期大学　講師）
杉山　　勝　（東京サドベリースクール　代表理事）
報　告　者：相田　まり　（国際学院埼玉短期大学　講師）
杉山　　勝　（東京サドベリースクール　代表理事）
小倉　陽菜　（東京サドベリースクール　同窓生）

《趣　旨》

「予測不可能」「不確実性」などの言葉で表現される加速度的な時代の変化の中で、従来の学校教育に対する疑問の声がますます高まっている。これまで学校で教えられてきた知識や技術は次々と更新され、人々の価値観も多様化している。そうした状況の中で、独自の理論やカリキュラムに基づく新たな教育を行う学校を積極的に選ぶ親子が増えている。

本ラウンドテーブルでは、こうした新たな教育実践の一つである東京サドベリースクールに着目する。東京サドベリースクールは 2009 年に設立された学校（スクール）で、アメリカ・マサチューセッツ州にある私立校サドベリー・バレー・スクールをモデルとしている。サドベリー教育は、授業がないこと、学年やクラスがなく異年齢で過ごすこと、ミーティングでの話し合いを通じて生徒自身がスクールの運営にかかわることを主な特徴としているが、創始者であるダニエル・グリーンバーグは、これをアメリカにおける責任ある自由な市民とデモクラティックな社会を創出するための教育と意味付けている。

先の見えない時代の中で、私たち大人は一体何を子どもたちに提供することができるのだろうか。本ラウンドテーブルでは、グリーンバーグの教育思想を踏まえつつ、東京サドベリースクールの実践報告や同窓生による体験談などから、同校の実践の意義と課題について、ひいては今後の教育の展望について、フロアと議論を交わしたい。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【4】シン読解力：学習言語の読解力が学力を左右する

企　画　者：新井　紀子　（国立情報学研究所）
司　会　者：新井　紀子　（国立情報学研究所）
報　告　者：菅原　真悟　（国立情報学研究所）
　　新井　庭子　（高崎経済大学）

《趣　旨》

発表者らは 2016 年から、主に教科書や新聞、辞書・事典などを出典とし、学習言語で書かれた 200 字程度の文章を提示し、それを「字義通りに」読み解けるかを多様な視点から問うリーディングスキルテスト（RST）を開発し、これまでに小学 5 年生から大人まで約 50 万人が受検した。RST で推定された受検者の能力値は、全国学力状況調査の小中学生のどの科目とも 0.4～0.7 程度の相関があることが知られているだけでなく、薬剤師国家試験への合否が、薬学部生の RST の能力値によって左右されること等も報告されている。我々は、学習言語で書かれた文章を、分野に依らず、頑健に読み解く力を、これまで国語科が想定してきた読解力と区別するため、「シン読解力」と名付る。シン読解力は、小学生から中学生にかけては伸長する傾向はあるが、どの学年でも分散が大きい。シン読解力と入学しうる高校の偏差値との相関係数は 0.8 を超える。一方で、高校生になると（現状の教育では、ほぼ例外なくどの偏差値の高校でも）その伸びは止まる。このような現象がなぜ起こるかについて、いくつかの仮説を提供した上で、議論の俎上にのせたい。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【5】教育における多様性、公正、包摂を考える

―OECD 報告書『公正と包摂をめざす教育』を手がかりに―

企　画　者：佐藤　　仁　（福岡大学）
　　伊藤　亜希子（福岡大学）
司　会　者：佐藤　　仁　（福岡大学）
報　告　者：伊藤　亜希子（福岡大学）
　　青木　麻衣子（北海道大学）
　　黒田　友紀　（日本大学）
　　内田　圭佑　（倉敷芸術科学大学）
　　島埜内　恵　（白鴎大学）
　　田中　光晴　（文部科学省）

《趣　旨》

OECD は 2023 年 1 月に、教育における多様性、公正、包摂を検討した報告書 Equity and Inclusion in Education を発表した。同報告書は、OECD が進めてきた「多様性が持つ強み」（Strength through Diversity）プロジェクトの成果であり、各国・地域が教育における多様性、公正、包摂に向けて、どのような動きを展開しているのか、そしてどのような方向性を共有できるかが分析されている。この分析の特徴は、多様性に対する資源ベースの教育の重要性を前提に、特定の多様性の次元に焦点を当てずに、5 つの政策領域（ガバナンス、資源提供、能力開発、学校への介入、評価とモニタリング）を全体論的アプローチから検討している点にある。本ラウンドテーブルでは、報告書の翻訳作業を通して明確になったプロジェクトの知見を踏まえた上で、日本の教育における多様性、公正、包摂を考える論点を議論する。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【6】社会的公正に向けた教育データサイエンス

―全国学力・学習状況調査実施、PISA、TIMSS のデータを活用して－

企　画　者：田端　健人　（宮城教育大学）
本図　愛実　（宮城教育大学）
山田　美都雄（宮城教育大学）
市瀬　智紀　（宮城教育大学）
平　真木夫　（宮城教育大学）
司　会　者：田端　健人　（宮城教育大学）
報　告　者：本図　愛実　（宮城教育大学）
山田　美都雄（宮城教育大学）
市瀬　智紀　（宮城教育大学）
指定討論者：平　真木夫　（宮城教育大学）

《趣　旨》

日本の教育において、社会的公正はどれほど達成され、どのような課題が残されているだろうか。またその課題の大きさはどの程度だろうか。こうした問いに、本ラウンドテーブルは、国内外の大規模学力調査のデータ分析により応答する。データ分析の視点は、ジェンダー平等、学力格差、児童生徒の家庭の社会経済文化的状況（SES）、エスニック・マイノリティー、学校文化、非認知能力やウェルビーイングである。数値データの分析は、分析結果の可視化（図表化）と不可分である。教師や一般市民にわかりやすい可視化に努める。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【7】近年の小説に見られる子どものエージェンシーの両義性

―『透きとおった糸をのばして』（2000 年）から『成瀬は天下を取りにいく』（2023 年）まで―

企　画　者：小玉　重夫　（白梅学園大学学長）
報　告　者：小玉　重夫　（白梅学園大学学長）
　　小林　夏美　（お茶の水女子大学非常勤講師）
指定討論者：後藤　美乃理（東京大学大学院博士課程）

《趣　旨》

2030 年代を見すえた新しい時代の教育を構想する際のキーワードとして「エージェンシー」の概念が急浮上している。特にそれは、従来大人の側から意味づけられ、収奪されてきた子どもの声を子ども自身の語りとしてとらえ直す可能性を示唆している。しかしながら同時にそこには、マイノリティ研究やサバルタン研究におけると同様の陥穽が、すなわち権力関係の不均衡をふまえずに当事者の声を安易に代弁してしまう懸念もまたはらまれている。本ラウンドテーブルではそうした子どものエージェンシーに関わる可能性と陥穽の両義性について、近年のヤングアダルト文学、および中高生を描いた小説に注目して、検討する。

具体的には、『「語る子ども」としてのヤングアダルト』（第 47 回日本児童文学学会奨励賞 受賞）でジュディス・バトラーに依拠しつつ子どものエージェンシーを論じた小林夏美が、『透きとおった糸をのばして』（2000 年）から近年の校則問題や多様性などを扱ったヤングアダルト文学に至る諸作品、さらには今年の本屋大賞を受賞した『成瀬は天下を取りにいく』（2023 年）などを通して、上述の両義性について問題提起する。次に小玉重夫がバトラーを批判的に継承するバラッドのエージェンシャルリアリズムの視点をふまえつつ、上記諸作品に描かれる中高生のエージェンシーを批判的に議論する。さらに、子どもの哲学をポストヒューマンの視点からとらえ直している後藤美乃理が、2 人の報告に対する指定討論を行い、議論を深めていきたい。

なお、本ラウンドテーブルは日本学術振興会基盤研究（B)「高大接続と大学初年次教育の思想・実践的研究―エージェンシーとアセンブリの視点から」の一環として行われる。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【8】子どもの生活・発達への気候変動の影響と教育学の課題

企　画　者：古里　貴士　（東海大学）
　　丸山　啓史　（京都教育大学）
司　会　者：古里　貴士　（東海大学）
報　告　者：丸山　啓史　（京都教育大学）
　　野田　　恵　（法政大学）

《趣　旨》

国連子どもの権利委員会が 2023 年に公表した General Comment 26「子どもの権利と環境―特に気候変動に焦点を当てて」でも指摘されているように、今も進行している気候変動は、子どもの権利にとっての巨大な脅威になっている。子どもは、成人と比べて、気候変動の悪影響に対して脆弱な存在である。しかし、日本においては、教育学の領域でも、気候変動が子どもの権利侵害であることへの認識が薄く、危機感も乏しい。そのため、子どもの生活・発達への気候変動の影響については、その実態さえ十分に把握されていない。激しい暑さ、予期しにくい豪雨、従来とは異なる季節の移りゆきなどが子どもたちの活動をどのように制約しているのか、その制約が子どもたちの成長・発達にどう影響しているのか、調査・研究はほとんどみられない。また、将来への不安を背景とする心理的問題も、あまり注目されていない。そこで、本ラウンドテーブルにおいては、日本の子どもの生活・発達への気候変動の影響に目を向ける。報告者は、「気候変動と子どもの権利」をめぐる近年の議論を振り返りつつ、自然体験活動や学童保育の関係者を対象に自らが実施したアンケート調査をもとに、子どもの生活・発達への気候変動の影響について報告する。その報告をふまえ、気候危機の時代における教育学の課題をともに考えたい。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【9】「排除と包摂」をめぐる対話

―人間関係学・重症児者教育学・障害者教育史学の視点から―

企　画　者：垂髪　あかり（鳴門教育大学大学院）
　　國本　真吾　（鳥取短期大学）
報　告　者：本多　敏明　（淑徳大学）
　　垂髪　あかり（鳴門教育大学大学院）
　　河合　隆平　（東京都立大学）
指定討論者：渡部　昭男　（大阪信愛学院大学／元神戸大学／鳥取大学（名誉））

《趣　旨》

発表者らはこれまで、日本教育学会近畿地区主催のオンライン企画「糸賀一雄の思想と実践」（2021.3.30）や日本教育学会第 80 回大会 RT 企画「糸賀一雄の『生産性』をめぐる対話」（2021.8.25）、日本教育学会第 81 回大会 RT 企画「糸賀一雄らの『ヨコへの発達』をめぐる対話：領域横断による読み解き―糸賀・田中・岡崎による結像／近江学園・びわこ学園の実践／アメリカの学説―」（2022.8.24）にて糸賀一雄の思想と実践について、さまざまな専門分野の研究者らとともに領域横断的な対話を深めてきた。 今回は、糸賀一雄の思想と実践を現代に発展・継承しようと奮闘する中堅研究者らによる、「包摂、対人関係、キャパシティ」、「ヨコへの発達」、「『生きること』に焦点を当てた教育史」についての話題提供を得て、人間関係学、重症児者教育学、障害者教育史学による「排除と包摂」をめぐる対話を深めたい。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【10】デジタル庁は教育 DX の政策過程をどう変えたのか？（How does the new Digital Agency change education policymaking on digital transformation?）

企　画　者：バンキン　サム（東京大学）
司　会　者：岩渕　　和祥　（東京大学）
報　告　者：バンキン　サム（東京大学）
　　辻　　優太郎　（東京大学大学院）
　　岩渕　　和祥　（東京大学）
　　村上　　祐介　（東京大学）
指定討論者：横田　　洋和　（こども家庭庁）
　　吉田　　欧太　（東京大学大学院）

《趣　旨》

教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）は、その功罪の検討も含めて近年の主要な教育課題の一つである。日本のデジタル社会実現の司令塔として 2021 年に設置されたデジタル庁は、文部科学省と並び、国の行政組織として教育のデジタル化に主要な役割を果たすことが期待されている。

他方で、デジタル庁は内閣直轄の組織として設置されており、学校教育を所管する文科省とは異なる政治・行政力学が働く場でもある。デジタル庁の存在は、教育 DX の政策過程にどのような影響をもたらしているのだろうか。近年、教育政策に多大な影響を与えている官邸主導・政治主導の影響は、教育 DX の政策過程に関してはどのように理解できるだろうか。経済産業省や総務省など、DX に関連する他省庁はいかなる役割を果たしているのだろうか。本ラウンドテーブルでは、こうした問いを念頭に置きながら、2022（令和 4）年 1 月にデジタル庁・総務省・文科省・経産省が策定した「教育データ利活用ロードマップ」に着目し、その政策過程を中心に検討を加える。

本ラウンドテーブルの目的は、第 1 に、教育 DX におけるデジタル庁の役割と影響、および教育 DX の政策過程とその特徴・課題を明らかにすること、第 2 に、官邸主導・政治主導下の教育政策形成の在り方を問うことにある。当日は、教育 DX の概要とその政策過程について 4 名の報告者が発表を行った後、デジタル庁で実際に教育 DX の推進に携わった実務家 2 名が指定討論を行う。その後、全体で議論を行いたい。　なお、本ラウンドテーブルは、日本語・英語の双方を使用言語とし、報告には英語で行う部分を含む。討論は主に日本語で行うが、英語による質問等も歓迎する。

*Presentations will be in both Japanese and English. Discussion is expected to be mostly in Japanese, while we welcome discussion in English.

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【11】大学教育における Diversity, Equity, and Inclusion 研修の開発と実践

―ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の観点から―

企　画　者：赤羽　早苗　（東京工業大学）

《趣　旨》

本研究は，大学キャンパス内のステークホルダーである学生（大学生・大学院生）,そして教職員の個々が持つ多様な個性を尊重し，将来のライフビジョンや社会関係スキルを育むために役立つ 自己や他者の認識，社会の歴史的背景の認識，多様性への意識の向上，公平性の重要性の認識，参加者の双方向の対話に必要なスキルを習得できるよう Diversity, Equity, and Inclusion 研修プログラム(以下，DE&I プログラム)を開発と実践を目的とし，研修が対象者にとりどのような効果をもたらすのかを調査した.

参加・体験に重きを置いたワークショップ型の DE&I プログラムを提供することで,身近な環境や一般的な社会に存在する多様性を理解・認識しながら必要に応じて動的に連携することを可能とするキャンパス・地域コミュニティ・社会を作っていくことを目標とし，大学生 5 名，職員 5 名，合計 10 名の対象者を募り，２グループに分け，2 回に渡り研修を実施した．事前・事後アンケートと半構造化インタビューを実施し，対象者からの経験や研修後の意識変革の有無などについて検証した．　調査結果としては，対象者が多様性について意見交換を通して，相互理解を深められるような機会を求め，多世代間での研修を欲していることがわかった.

多様な世代や役職などを持つ人々と共に意見交換をすることで，大学をより多様性に富んだ，ひとりひとりが生きやすい場にしていきたい，と多世代間の協働を希望する若い世代からの声が多かった．　今後は対象者の人数や幅をさらに広げ，教職員，留学生を含む学生，など多様なアイデンティティを持つ人々が協働できる研修を検討している.

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【12】アメリカにおける教職の専門職性の歴史的展開と現代的課題

企　画　者：間篠　　剛留　（日本大学）
司　会　者：古田　　雄一　（筑波大学）
　　西野　　倫世　（大阪産業大学）
報　告　者：間篠　　剛留　（日本大学）
　　原　　圭寛　（昭和音楽大学）
　　石嶺　ちづる　（愛知教育大学）
指定討論者：森本　　和寿　（大阪教育大学）

《趣　旨》

アメリカでは 1990 年代以降、教職の脱専門職化と呼ばれる状況が進行してきた。スタンダードとアカウンタビリティに基づく監査社会の形成によって、これまで教師が教室において果たしてきた自律的な判断が損なわれてきたと指摘されている。また、伝統的な養成ルートに代わるオルタナティブ・ルートの拡大も、その専門職性を揺らがしてきたと言われる。

こうしたなか、教職の専門職性を再定義しようとする動きもあるが、それはかつての姿を取り戻そうとするものではない。現代において、知的職業集団としての専門職は、様々なアクターとの相互作用の中で、知識水準や職域、影響力を変化させてきている。また、専門職としての教職といっても、その在り方は一様ではない。多様な専門性を持った者たちが専門職としての教職を形成しており、そこには中心と周縁も存在している。今後の教職の専門職性を展望しようとした際には、多元的な見方が必要になってくるだろう。とはいえ、何でもありということにはならない。知的専門職としての教職を考えるならば、何がその知的な部分を担保しているのかという点は、これまで以上に重要な論点となってくる。 上記の関心のもと本ラウンドテーブルでは、アメリカにおける教職の専門職性を歴史的な視座の下で捉えなおす。歴史的な経緯をたどることを通して教職の専門職性に関する抽象概念の整理を行い、現代的な展開から具体的な事実を確認する。両者を交差させることによって現代的課題を明らかにし、今後の専門職としての教職の在り方を展望する。なお、本研究は JSPS 科研費 JP23K25632 の助成を受けたものである。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【13】教育の情報化と学校図書館

―情報の意味を理解し活用するための学校図書館の役割とは―

企　画　者：木幡　洋子　（愛知県立大学）
野口　武悟　（専修大学　生田キャンパス）
司　会　者：泉山　靖人　（東北学院大学）
報　告　者：木幡　洋子　（愛知県立大学）
野口　武悟　（専修大学　生田キャンパス）

《趣　旨》

教育の情報化は、コロナ禍を契機とした GIGA スクール構想の前倒しにより一気に進んでいった感がある。けれども、それは、タブレットの導入が進んだということであり、タブレットを活用するための wifi 環境、デジタルコンテンツの利用、学習指導要領との関連付け、さらに技術的な支援については、地域や学校間の格差が広がっているのが実態である。日本における情報化は、今世紀に入ってからの 20 年余りの間に急速に進められてきたが、それは、情報に対する理解を曖昧にしたまま、情報活用能力をコンピュータ活用能力と置き換えて理解するなどの、情報に対する十分な理解を欠いたままの急激な変化であった。本来の情報活用とは、問題が起きた時に、その解決のためにどのような情報を、どのように見つけ、どのように選択し、利用（発信）するかという一連の流れにおける能力のことである。ところが、日本では 2000 年の IT 基本法制定以降、国際的経済競争力のための”情報教育”が文部科学省ではなく経済産業省が推進の中心的な役割を担っているかの様相を見せ、それに総務省とデジタル庁が関わって進められてきたことにより、情報社会において”一人ひとりの個性”を伸ばすという教育観が前面から消えていき、国際的経済競争力を高めることのできる人材育成が教育における急務として教育の前面に位置付けられることになった。この傾向は、2016 年に第 5 期科学技術基本計画で提唱された Society5.0 により拍車がかかることになり、民間による新たな技術の教育における利用（EdTech 利用）が推奨される一方で、体系的な情報への理解や利活用についての専門性を持つことが期待されている学校図書館の役割が蔑ろにされることが助長されている。教科横断で情報教育を行うのは、前提となる基本的な情報への教育があってこそ可能になることで、それは学校図書館を本来の役割として機能させることにほかならないことを討議により深めたい。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【14】総合学習実践の形成と発展に関する考察

―和光小学校、和光鶴川小学校での実践を手がかりに―

企　画　者：辻　　直人　（和光大学）
報　告　者：大西　公恵　（和光大学）
　　太田　素子　（和光大学）
　　藤田　康郎　（公立大学法人　都留文科大学）

《趣　旨》

「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）は 1998 年告示の学習指導要領で初めて定められ、小学校は 2000 年度から、中高では 2003 年度から実施されるようになった。一方、私立和光小学校では独自のカリキュラムとして 1975 年頃より総合的な取り組みが見られるようになり、1985 年より「総合学習」が全学年で設けられ（低学年は「生活べんきょう」と呼ばれる）、学年ごとのテーマに沿って現在まで継続的に行われている。その際、和光小では「総合学習」を教育課程の土台として位置付けている点が特徴として指摘できる。

近年、公立校で行われる総合学習は時数を減らす傾向がある。その理由の 1 つは教員の負担軽減とされている。しかし、和光学園の 2 校では独自の視点でいち早く「総合学習」を導入し、現在に至るまでの蓄積がある。本企画では、和光小学校と和光鶴川小学校で行われている「総合学習」の実践がどのような理念のもとで行われてきたのか、具体的なテーマや実践はどのように形成され発展していったのか、取り組む教師たちの姿勢と学ぶ子どもたちの様子など多角的に分析し、総合学習の意義と課題を考察することを目的とする。

和光小では小 3 で「かいこ」、小 4 で「多摩川」、小 5 で「食」、小 6 で「沖縄」をそれぞれ「総合学習」のテーマとして定めているが、毎年度様々な試行錯誤が見られる。今回は、和光小・和光鶴川小の教師たちが残す様々な実践記録や子どもたちの残した手記、絵などを具体的に検討しながら、学習目標の形成と深化過程、探求過程における教師と子どもの相互作用などを明らかにし、和光小・鶴川小の「総合学習」の意義を考察する。その上で、文科省の目指す公立での総合学習との対比や国際的動向を視野に入れた総合学習論の理論的検討を行う。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【15】ポスト社会主義諸国における教育改革動向

―STEM/STEAM/STREAM 教育に着目して―

企　画　者：澤野　由紀子（聖心女子大学）
司　会　者：木之下　健一（目白学園大学）
報　告　者：澤野　由紀子（聖心女子大学）
　　タスタンベコワ　クアニシ（筑波大学）
　　MISOCHKO　GRIGORY（京都外国語大学）
　　黒木　貴人　（福山平成大学）
　　白村　直也　（岐阜大学）
指定討論者：大谷　　実　（金沢大学）

《趣　旨》

20 世紀末からの情報革新とグローバル化の進展に伴い、国の経済・産業発展のために国際的競争力の高い人材養成の必要性が増すなか、児童生徒一人ひとりの才能と創造性を引き出す教育を推進するための教育政策・制度の構造はどうあるべきか、教育機会の公正性の観点からの探究が求められている。私たちは、2020 年度より第 4 次産業革命への対応と社会・経済の急激な変化により生じる諸問題を解決するための創造性やデザイン的思考力を育む上で効果が期待される科学・ロボティクス・工学・芸術・数学を融合させた STREAM 領域の才能教育に独自の手法で取り組む旧ソ連諸国とに注目し、その制度設計の構造と教育実践の実態とともに、教育ネットワークを通じた周辺諸国への国際的な影響関係の解明を目指してきた。本ラウンドテーブルでは、2023 年 2 月 24 日から始まったロシア連邦のウクライナへの軍事侵攻の長期化による対象地域の教育協力ネットワークの構図の変化を視野に、中央アジア諸国、バルト諸国ならびに周辺のポスト社会主義諸国において実施した現地調査の成果を中心に報告する。なお、本研究は JSPS20H01646 による。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【16】災害時の子ども支援の取り組み

―能登半島地震を中心に―

企　画　者：伊藤　　駿　（京都教育大学）
　　中丸　　和　（大阪大学大学院）
　　小浦　　明生（特定非営利活動法人じっくらあと）
司　会　者：伊藤　　駿　（京都教育大学）
報　告　者：中丸　　和　（大阪大学大学院）
　　仁志出　憲聖（一般社団法人第３職員室）
指定討論者：吉田　尚史　（山形大学）

《趣　旨》

本企画では災害時に子どもやその保護者がどのような状況に置かれているのか、そしてどういった支援が必要なのかということを考えていく。

近年では毎年のように豪雨災害をはじめとする多数の災害が起こっており、災害にいかに備えるのかということは重要な課題の一つとなっている。企画者は東日本大震災以降、被災地のこども支援に携わっており、近年では災害直後にいちはやく被災地に入りこどもへの支援を行っている。特に 2024 年 1 月 1 日に起こった能登半島地震では、1 月 4 日より現地入りし、現在に至るまで、子ども・学校・教育行政への支援活動に取り組んでいる。

そうした中で見てきたのは、怪我や持病のあるこどもたちを除けば、見た目上こどもたちは「元気」であり、そのため支援の優先順位が低く置かれること、そしてそのケアは保護者に任せきりになるということである。もちろん災害直後は緊急時であり、安全の確保、そして命を守ることが最優先事項であることに疑いはない。しかしながら、災害直後からこどもたち、そしてその保護者は非常に多くの困難に直面しており、そのすべてを保護者に任せるのには限界がある、と私たちはこれまでの災害支援の現場から確信している。他方で、こうした現場の実態やその背景にある様々な法制度が十分に理解されないまま支援が進んでいることも少なくない。

そこで今回の企画では、まず中丸会員より災害時の子どもを支えるためにいかなる制度が存在し、機能しうるのかを発表する。その上で、実際に金沢市で活動を行った仁志出氏と輪島市で活動を行った小浦氏より災害時の子ども支援の実践を報告いただく。そして伊藤会員がこれらの発表をもとに災害時にどのような子ども支援が必要とされているのかを発表する。最後にこれらの発表を踏まえ、吉田会員より議論に向けた論点の提示をいただく。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【17】コルチャック『子どもをいかに愛するか(家庭の子ども編)』を読む

―コルチャック子育て・教育学テキストの検討―

企　画　者：塚本　智宏　（札幌国際大学）

《趣　旨》

今日世界で読まれているコルチャックテキスト『子どもをいかに愛するか』(第二版 1929 年)は、4 つの編(家庭の子ども編・寄宿舎編・夏季コロニー編・孤児の家編)から成り立っている。そのうちの家庭の子ども編は 1918 年には彼自身の思い「子どもの偉大なる総合」を目指して原稿がすでにできあがり、他の 3 編も 1920 年までには完成し出版されたテキスト(初版)であるが、その十年後 1929 年に本文には変更なく、文中で必要な補注などを加えて第二版が刊行され今日に至っている。このテキストは 2012 年国際コルチャック年を機にポーランド子どもの権利オンブズマン庁がリプリント版を刊行している。各国での翻訳が進み英語圏でも近年新訳テキストも現れて入手が容易になったものの、我が国ではなお未公刊のままである。ここ最近のわが国での子どもの権利に関する社会・政治状況の進展を背景に、子どもの権利思想の古典の一つ(本書に子ども権利大憲章”死”・”今日”・”あるがまま”の三権への言及がある)としての本書に関心が高まり本格的検討も求められている。

2004 年のラウンドテーブルで本書 4 編の概略紹介を試みたのに続いて、今回は、家庭の子ども編にしぼって全 116 章の構成と内容を検討する。①本書執筆の歴史的背景(戦争と革命、解放運動、子ども研究の広がり)の解明、②執筆に至る生涯や思想の展開と本書の位置の解明、③本書による乳幼児期から青年期に至る子どもの人格と成長・発達の全体構造の把握をめざす。

石川道夫(元藤田保健衛生大学)の司会で、塚本智宏(札幌国際大学)と小田倉泉(埼玉大学)が本編の考察と報告を行い、これに基づき、参加者が自由に意見交換を行い研究の現状と課題を明らかにする。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【18】「学習指導要領体制」の構造的変容に関する国際比較調査研究の総括

企　画　者：日永　龍彦　（山梨大学）
報　告　者：日永　龍彦　（山梨大学）
濱口　輝士　（名古屋文理大学）
姉崎　洋一　（北海道大学）
指定討論者：植田　健男　（花園大学）

《趣　旨》

科学研究費補助金による「「学習指導要領体制」の構造的変容に関する総合的研究」（20H00103　研究代表者　植田健男：花園大学）は本年度最終年度を迎える。同科研は複数の研究班に分かれて研究をおこなっているが、そのうち企画者（日永）が担当している国際比較班では、2023 年と 2024 年の 2 年にわたって海外調査を実施し、各国中央政府のカリキュラム政策や学力向上策等が地方政府の段階でどのように定着し、また変容しようとしているのか、などについての聞き取りや資料収集を行った。本ラウンドテーブルでは、当班所属の研究分担者が行ってきた調査研究で得られた諸情報を分析し、とりわけ 2010 年代以降における各国の変化を比較検討する機会としたい。 例えば、米国については周知の通り、2010 年代初頭に州教育長協議会が主導した、各州共通のカリキュラム基準（Common Core Standards）が作成され、各州でその導入が図られたが、同時にカリキュラムを提供する複数の企業・組織・団体などが現れ、学区がカリキュラムを購入するような状況が見られる。今回の調査ではワシントン DC 教育庁とカリフォルニア州教育省を訪問しているが、両者の異同やそこに属する学区の動き、さらには Common Core Standards の改訂への対応などについて検討してみたい。また、カリフォルニア州については、州教育省と同州を管轄する西部地区アクレディテーション団体との連携についても検討したい。

ラウンドテーブル　　8 月 29 日（木）　　15：30～17：30

【19】改めて問われるデジタル教育の有効性

―Post コロナにおける PISA2022・ユネスコの動向―

企　画　者：前田　稔　（東京学芸大学）
司　会　者：前田　稔　（東京学芸大学）

《趣　旨》

2023 年 12 月に PISA2022 の結果が公表され、休校期間の長短が、数学のスコアと、学校への帰属意識に影響することが示された。すなわち、デジタル手段を用いた遠隔授業は、対面授業に匹敵しないないという課題が惹起された。課題の理解やモチベーションの維持に苦労したこともあり、比較的早期に休校を解除した東アジア諸国と比べ、長期化した西欧諸国が軒並み順位を落としている。諸外国からは、日本はデジタル教育が遅れているからこそ、日本の順位が上昇したのではないかと評価されかねない状況である。一方、ユネスコは「Ed-Tech の悲劇？ COVID-19 期における教育テクノロジーと学校閉鎖」(2023)を公表した。物理的な教室からオンラインへ、人間による指導からアルゴリズムへ、紙の教科書からデジタルコンテンツへのシフトが、より効果的な教育、学習、評価、ひいては教育成果の向上をもたらす言説は夢物語であり、パンデミック期に教育がいかに危険な軌跡をたどり、その人間主義的な目的や、公平性と包摂性を保証するという願望とは相反するものになったことを指摘している。

第 68 回大会において学校図書館をテーマに始まった当ラウンドテーブルは、第 72 回大会よりメディア情報リテラシーへ関心を広げ、毎年開催してきた。2020 年のテーマ「デジタル・シティズンシップ教育と With and Post コロナ―学校教育の今浦島―」から 4 年を経て、改めて、デジタルシティズンシップ教育、ならびに学校図書館における紙メディアによる教育の視点から、コロナ期を振り返りつつ、今後の展望を議論していく。

プログラム　第二日

８月３１日（土）

課題研究Ⅰ

総会

公開シンポジウムⅠ

若手交流会

課題研究Ⅰ　8 月 31 日（土）　9：30～12：00

課題研究Ⅰ
AI の利活用社会における教育的価値―言語教育を中心に―

企画趣旨

コロナ禍を推進力に数千億円が投じられた「GIGA スクール構想」に象徴・集約される形で、デジタル化が学校教育に大きな影響を及ぼしている。同時に、2022 年 1 月には「教育データ利活用ロードマップ」も公表され、「学校教育のデジタル化の目的は、学習・教育の方法やその機会を拡張するための条件整備から、ICT によって収集、分析されるデータを軸に教育の実践と政策を再編することへと変容している」（中西ほか, 2023, p. 45）。このような「『データ駆動型教育』構想」を教育学はどう受け止め、何を問うべきか。

加えて、OpenAI の ChatGPT 登場以降、教育における生成 AI の利活用が盛んに議論されるようになり、2023 年 7 月には、中央教育審議会初等中等教育分科会デジタル学習基盤特別委員会の議論を踏まえ、文部科学省から「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」が策定されるに至っている。しかし現時点で、教育学の知見がここに十分反映されているか、あるいは教育学者が生成 AI の特性を十分理解した上で学校教育への影響を捉えられているかと言えば、必ずしもそうとは言えないのではないだろうか。

本研究課題では、教育にもさまざまな形で関わりを持つ言語学者・数理論理学者に登壇をお願いし、とりわけ言語教育にフォーカスを当て、AI の利活用によって教育にもたらされる恩恵と、同時に顕在化が予想される諸課題を論じ、見過ごされかねない教育的価値に迫りたい。

【参考】中西新太郎・谷口聡・世取山洋介（2023)『教育 DX は何をもたらすか―「個別最適化」社会のゆくえ―』大月書店.

登壇者

・大津由紀雄（関西大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授）　「認知科学と決別しての AI の「成功」で鮮明になった外国語教育の目的」
・新井紀子（国立情報学研究所）　「『科学』に足る教育データをいかに取得する　か―リーディングスキルテストを巡って―」
・亘理陽一（中京大学）　「生成 AI は子どもたちからどういう『ことば』を生成し得るか―教室の声と文字―」

司会

・松下佳代（京都大学）
・杉田浩崇（広島大学）

総会　8月31日（土）　13：30～14：45

総会

総会は、名古屋大学全学共通棟Ｃ１５およびオンライン会議システム Zoom によるハイフレックス形式で開催します。総会の議事次第と資料、Zoom URL は、８月中旬ごろに、会員マイページ （https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/mypage/JERA）でお知らせします。ご確認下さい。

日　　時：2024 年 8 月 31 日　13:30-14:45
開催方法：現地会場（対面）とオンライン Zoom のハイブリッド

公開シンポジウムⅠ　8月31日（土）　15：00～18：00

公開シンポジウムⅠ
現場の長時間労働解消に向けて教育学が取り組むべきこと

中央教育審議会がいわゆる働き方改革答申において、「子供のため」の「崇高な使命感」が長時間労働の一因となっていると指摘したのは、2019年1月のことであった。これまで教育界では、現場、行政、学者のいずれもが、「子供のため」に必要な教育のあり方を模索してきた。そのモデルが、反省を迫られることとなった。

あれから、はや5年が経過した。この間、最新の勤務実態調査（2022年度中）の結果が公表され、また給特法の再改正も検討されている。現場では、児童生徒の目の前に学級担任や教科担任がいない「教師不足」の問題が顕在化している。

働き方改革の必要性が叫ばれるなか、本シンポジウムでは、全体として次の2点に関心を寄せながら、現場の長時間労働解消に向けて教育学が取り組むべきことを考えていきたい。

第一の関心が、学校の具体的な現実、教員の日常の目線を共有することである。まずは現場の声、現場の課題を学会として共有することを基本としたい。

第二の関心が、長時間労働の解消に向けて教育学者に何ができるかを考えることである。教師不足は日本の学校教育の崩壊につながる。教育学のこれまでのスタンスを反省しつつ、教育学が働き方改革にいかに資するか、未来志向的に検討したい。

本シンポジウムでは、研究者のみならず、教員など教育の実践に関わる者も報告者にくわわることで、全体として上記の2つの関心に応えていきたい。

報告者

・寺町 晋哉　（宮崎公立大学・准教授）
・跡部 千慧　（東京都立大学・助教）
・西村 祐二　（岐阜県立高校・教諭）
・氏岡 真弓　（朝日新聞社・編集委員）

指定討論者

・首藤 隆介　（名古屋造形大学・教授）
・保田 直美　（大阪成蹊大学・准教授）

司会者

・今津 孝次郎　（星槎大学大学院特任教授・名古屋大学名誉教授）

企画担当

・内田良（名古屋大学）／渡邉雅子（名古屋大学）

若手交流会　8 月 31 日（土）　18：15～19：45

若手育成委員会主催　若手交流会

自分がなりたい研究者像を描こう―early career から middle career への歩み―

本企画は、研究者としてこれからキャリアを構築していくアーリー・キャリアの研究者たちが、ミドル・キャリアの研究者の経験に学びながら語り合うことを通して、自らの歩みたい道を思い描くことができる場を設けることを目的とする。

アメリカ・アジア・ヨーロッパで共同研究を進める３名のミドル・キャリアの方々をお招きし、キャリアを切り開く時にどのような模索や決断が行われたのか、公の場ではあまり語られることのない貴重なお話をしていただく。その後、小グループに分かれて参加者相互で交流する。キャリアの長短にかかわらず、幅広い会員の参加を歓迎する。

【プログラム】

司会：影山奈々美（東京大学大学院 博士課程院生）

趣旨説明：佐久間亜紀（若手育成委員会委員長、慶應義塾大学）

話題提供者：

鈴木悠太（東京工業大学）

主著『教師の「専門家共同体」の形成と展開―アメリカ学校改革研究の系譜―』勁草書房，2018.

共同研究：アメリカ・アジア・ヨーロッパ

西野倫世（大阪産業大学）

主著『現代アメリカにみる「教師の効果」測定―学力テスト活用による伸長度評価の生成と功罪』学文社，2024.

共同研究：アメリカ

奥村好美（京都大学）

主著『〈教育の自由〉と学校評価―現代オランダの模索―』京都大学学術出版会，2016.

共同研究：オランダ

【趣旨】

昨年度、若手育成委員会で行ったアンケート調査によると、アーリー・キャリアが抱える困難の中で、「研究の見通しへの不安（77.1%）」と「将来の職への不安・迷い（72.2%）」が高い割合で示された。また、同調査では、ブレイクスルーの経験も自由回答として語られた。その中では、「達成感を得る（博論の提出や査読論文の採択）」「就職をする」「人や研究テーマとの出会い（留学や海外研究）」がきっかけとなったという回答が得られた。

これらの調査結果を踏まえ、今回はとりわけブレイクスルーの経験に焦点化し、1. 博論の執筆・出版、2. 就職、3. 国際的な共同研究の３つをキーワードにして企画した。

・論文投稿について、投稿先はどう決めるのか（国際学会も含めて）。
・査読論文が採択されるにはどうすればよいか。
・研究（修士・博士課程）を進める中で迷いや見通しが持てない時期に何をしたのか、また、振り返って何が重要であったと感じるか。
・就職のために、どのような活動をしたのか。
・博士課程を修了した後に、指導教員がいなくなることへの不安について。
・在外研究をどのようにして実現したのか。
・海外の研究者とのコネクションをどのように作るのか。

今回の話題提供者には、これらの経験をお話いただく。それぞれ置かれた環境や歩む道は異なったとしても、ミドル・キャリアが何を大事にし、どのように判断・選択をし、経験を重ねてきたのかを聞くことは、アーリー・キャリアが自らの立場や状況に置き換えて未来を描くことの支えになるのではないか。
また、企画の後半では、アーリー・キャリア同士が語り合う時間を設け、他者と未来のビジョンを共有することで、互いにインスパイアし合い、自分の将来のビジョンや、ネットワークを広げることの一助になることを願う。

【スケジュール】
18:15-18:25 開会、趣旨説明（10 分間）
18:25-19:10 話題提供（45 分間）
19:10-19:30 話題提供を受けて参加者同士のディスカッション（20 分間）
19:30-19:40 全体交流（10 分間）
19:40-19:45 総括、閉会（5 分間）

【開催方法】
話題提供（19:10）までは対面とオンラインにて、ディスカッション以降は対面のみで開催させていただきます。

【事前参加登録】
ご参加予定の方は、以下より事前参加登録をお願いいたします（当日参加も歓迎いたします）。

https://forms.office.com/r/eFa0qL4efg

日本教育学会若手育成委員会主催
第83回大会 若手交流会

自分がなりたい研究者像を描こう

ー early career から middle career への歩みー

2024. 8.31 土 18:15～

ハイブリット開催※

※話題提供まではハイブリッド開催（大会会場 ＋ オンライン）になりますが、ディスカッション以降は会場のみとさせていただきます。

参加費無料

キャリアや年齢にかかわらず、どなたでもご参加いただけます。

大会会場

名古屋大学 東山キャンパス

司　会　影山 奈々美（東京大学大学院 博士課程院生）

趣旨説明　佐久間 亜紀（若手育成委員会委員長、慶應義塾大学 教授）

企画趣旨

アーリー・キャリアの研究者は様々な困難や不安を抱える中で、いかにしてキャリアを切り開く道を思い描くことができるのでしょうか。本企画では、国際的に共同研究を進める3名のミドル・キャリアの方々をお招きし、「博論の執筆・出版」「就職」「国際的な共同研究」をキーワードに話題提供をいただきます。ミドル・キャリアの研究者の模索や決断の経験から学ぶことで、アーリー・キャリアをエンパワーするきっかけになることを期待しています。また、アーリー・キャリア同士が語り合う時間を通して互いにビジョンや疑問を共有し合い、ネットワークを広げる場とすることを目的とします。

スケジュール

18:15～18:25	開会・趣旨説明
18:25～19:10	話題提供（45分間）
19:10～19:30	参加者同士によるディスカッション
19:30～19:40	全体交流
19:40～19:45	総括・閉会

話題提供者

東京工業大学 准教授　鈴木 悠太 氏

大阪産業大学 准教授　西野 倫世 氏

京都大学 准教授　奥村 好美 氏

当日参加も大歓迎

事前参加登録はこちらから

パソコンからは二次元コードをクリックしてください。

お問い合わせ

wakate@jera.jp

主催：日本教育学会　若手育成委員会

プログラム　第三日

９月 １日（日）

公開シンポジウムⅡ

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ

公開シンポジウムⅡ　9月1日（日）　9：00～12：00

公開シンポジウムⅡ
教育福祉研究の課題：子ども保護と学びの保障

企画趣旨

教育学は、学びと成長の保障を軸に子どもの権利を考えてきた。その基礎に立って、困難を抱える子どもの現実をこれまで以上に正面から受け止め、それぞれに相応しい権利保障を構想することの必要性が認識されている。このシンポジウムでは、経済的困窮世帯の子どもへの学習支援と、虐待を受ける子どもとその家族への支援それぞれの現実と課題を整理し、子どもの権利保障を考える。

登壇者

・辻　浩（名古屋大学研究員）「子どもの権利保障と教育福祉研究」

困難を抱えた子どものことは、これまでの教育学で空白部分が多く、また、わかりやすい課題で正義にもかなっているので、多くの人がものを書くようになっている。この報告では、子どもの権利保障ということに照らして根本的に考えてみたい。

・川口洋誉（愛知工業大学）「子どもの権利と学習支援の可能性」

子どもたちの困難に向き合い信頼関係をベースに居場所づくりに努める学習支援がある一方、民間の学習塾や個別指導教室による学習支援は教科指導や受験対策にウェートを置いている。子どもの権利に着目して、教育福祉実践としての学習支援の意義と可能性について検討したい。

・沢田直人（元小牧市子育て世代包括支援センター・社会福祉士）「児童虐待支援における子どもの困難性と発達の権利保障の課題について」

経験主義的な議論は好まないが、現場で感じた子どもと家族に対する支援の制度や組織の課題を子どもの発達の権利保障の視点で考察したい。権利論の主報告や学習支援の課題報告とリンクできるようにしたい。

司会

・河野明日香（名古屋大学）

企画担当

・中嶋哲彦（愛知工業大学）

課題研究Ⅱ　9月1日（日）　9：00～12：00

課題研究Ⅱ

Social Justice and Equity in Education

What is social justice in education and how can we ensure educational equity? Today, while globalization, multiculturalism, the fourth industrial revolution, and changes toward a new public and civil society are spreading, we are also suffering from widening educational and economic disparities, the development of a risk society, and deepening division and conflict over justice. The public education system is sustained by some kind of common culture and education that transcends differences among people of various social and cultural backgrounds, and standard content and curricula are designed based on such common values, but the principles of justice and equity that form such commonality and standards of education are themselves wavering. As differences and diversity in race, religion, language, region, culture, gender, disability, customs, and values become increasingly evident, there is also a need to ensure equal and equitable access to education for socially and economically disadvantaged children and for minority children who are marginalized by "mainstream" status. Today, for example, SDG 4 sets the goal of ensuring "inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all," and the current Courses of Study reflect the concept of education to realize a society in which "no one will be left behind," based on the development of "creators of a sustainable society." However, it is not easy to ensure that no one is left behind in the true sense of the word and that all children are provided with a high-quality and equitable education. Under these circumstances, we need to think about how to envision social justice and equity in education, how to guarantee access to education that respects different cultures and values, how to realize curriculum diversity, how to achieve education that rectifies disparities and overcomes inequalities, how to encourage dialogue that goes beyond serious social divisions and intolerances, and how to form citizens who will be responsible for social change. These questions have emerged as urgent social issues that should be resolved. In this research project, we would like to deepen our understanding of the themes of social justice and equity in education and consider concrete strategies to realize them.

Panelists:

Yoshihito Ii (Osaka Metropolitan University) How Should We Understand Social Justice and Equity in Education Policy?: Focusing on Australian and Japanese Contexts

Miyuki Okamura (Hiroshima University) Social Justice in Question: Bolivian Education Reforms and the Indigenous and Teachers' Unions Movements

Hiroko Kushimoto (Sophia University) Issues of Education and Social Justice from the Perspective of Muslims as a Global Minority: The Case of Malaysia

Hitoshi Sato (Fukuoka University) Envisioning Social Justice and Equity in Teacher Education: What Can We Learn from the Discussions in the U.S.?

Discussant: James Williams (George Washington University)

Moderators: Miki Sugimura (Sophia University), Masamichi Ueno (Sophia University)

教育における社会正義と公正性

教育において社会正義とは何か、教育の公正性をどのように確保するのか。今日、グローバル社会化や多文化共生社会化、第四次産業革命、新しい公共や市民社会に向けた変化が広がる一方で、教育格差・経済格差の拡大や、リスク社会の進展、正義をめぐる分断と対立の深化にも見舞われている。公教育制度は、異なる社会的、文化的な背景をもつ人びとの違いを越えた何らかの共通文化・共通教養（コモンなもの）に支えられ、それをもとに標準的（スタンダード）な内容やカリキュラムが設計されるが、そのような教育の共通性やスタンダードを形成する正義や公正性の原理そのものに揺らぎが生じている。人種、宗教、言語、地域、文化、ジェンダー、障害、習慣、価値観の差異や多様性がますます顕著にあらわれる中で、社会的、経済的に不利な条件に置かれている子どもや、「主流」とされる立場からは周辺に置かれたマイノリティの子どもに対して平等で公正な教育アクセスを確保することも求められている。たとえば、今日、SDGs 4 では「すべての人に包摂的かつ公正で質の高い教育」を確保することが目標に掲げられ、現行の学習指導要領においても「持続可能な社会の創り手」の育成のもと、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた教育の考え方が反映されている。だが、本当の意味で誰一人取り残さず、すべての子どもたちに質の高い公正な教育を保障することは容易ではない。こうした状況下で、教育の社会正義と公正性をどのように構想するのか、異なる文化と価値観を尊重した教育アクセスの保障やカリキュラムの多様性、格差是正や不平等の克服へと向かう教育をどう実現するか、さまざまな分断と不寛容を越えて対話を促し、社会の変革を担う市民（シティズンシップ）をどう形成するかといった事柄は、喫緊の課題として浮上している。そこで、本課題研究では、教育における社会正義と公正性のテーマにかかわる理解を深め、その実現に向けた具体的な方略を考えることにしたい。

登壇者：伊井義人（大阪公立大学）
岡村美由規（広島大学）
久志本裕子（上智大学）
佐藤　仁（福岡大学）

指定討論：James Williams（George Washington University）

司会：杉村美紀（上智大学）　上野正道（上智大学）

課題研究Ⅲ　9月1日（日）　13：00～16：00

課題研究Ⅲ

なぜ、日本の公教育は、不自由で非包摂的なのか？

企画趣旨

近年、従来の社会や公教育において周縁に置かれ排除されてきた人々のニーズに応え包摂しようとする取り組みは拡大してきた。だが、標準法を変えずに加配で対応する、多様な教育の機会は確保してもそれが選択肢の拡大とその周縁化にとどまるといった具合に、公教育の本体は変わらない状況になってはいないか。そうして、非多様で不自由な状況は変わらず、むしろ深刻化してはいないか。これに対して、マイノリティだけでなく、マジョリティ（メインストリーム）も含むフルモデルの再構築が必要ではないか。

本課題研究では、日本の教育システムの非多様で不自由な現状を確認しつつ、そのような状況が生まれ、深刻化する構造的な要因に迫り、乗り越える展望についても議論していきたい。こうした問題は、マイノリティの教育やオルタナティブな学びの場や福祉等、公教育制度の境界や周縁部分にフォーカスする研究者によって主に論じられてきた。これに対して、本課題研究では、必ずしもそうした研究課題を専門的に研究してきたわけではないが、しかし、学校内外に拡大する選択肢も含め、公教育の本体や全体をトータルに考え直す問題意識をもった研究者に登壇をお願いし、そうしたある種「素人」性のある登壇者からの問題提起に対して、そうした問題を真正面から扱ってきた指定討論者が応える形で進めたい。これにより、非多様で不自由な教育をめぐる従来の議論の仕方を問い直し、包括的な公教育の問い直しに向けた問題圏を構成することをめざしたい。

登壇者

・西村拓生（立命館大学）　「『妨げているのは何か？』をめぐるナラティブ、あるいはお人好しとシニシズムの間で―教育哲学・思想研究の立場から―」
・石井英真（京都大学）　「不自由さを拡大する公教育改革の論理と癖―教育方法学・教育実践研究の立場から―」
・福嶋尚子（千葉工業大学）　「『隠れ教育費』から見る公教育の条件整備と権利保障の課題―教育行政学・教育法学の立場から―」

指定討論

・桜井智恵子（関西学院大学）
・赤木和重（神戸大学）

司会

・清水睦美（日本女子大学）

Ⅳ　学会事務局からのお知らせ

日本教育学会　特別課題研究・課題研究委員会・地区研究活動

報告書・資料集頒布のお知らせ

○特別課題研究

101	教育改革の総合的研究　第１集	［2001 年 8 月］	500 円
102	教育改革の総合的研究　第２集	［2002 年 8 月］	500 円
104	教育改革の総合的研究　第４集	［2004 年 8 月］	800 円
203	教師教育の再編動向と教育学の課題　研究集録〈２〉	[2006 年 8 月]	500 円
301	教育改革の国際比較	［2007 年 9 月］	3,400 円
302	教育研究における東アジアの歴史認識	[2009 年 8 月]	500 円
303	東アジアの教育－その歴史と現在－（資料	[2011 年 8 月]	500 円
304	東アジアの教育－その歴史と現在－（最終報告書）	[2012 年 8 月]	500 円
305	現職教師教育カリキュラムの教育学的検討	[2012 年 9 月]	500 円
309	東日本大震災と教育－原発・エネルギー問題の教育実践課題を中心として－	[2013 年 2 月]	無料
401	スクール・セクハラ問題の総合的研究	[2017 年 5 月]	500 円

○課題研究委員会

Ｄ－2	「人間の尊厳と共生」の教育研究（平和教育・環境教育資料付）	[2002 年 8 月]	500 円

○地区研究活動

東北－11	新しい時代の学校システムを考える ―教育のグローバル化への国際バカロレア(IB)の可能性―	[2017 年 3 月]	300 円
東北－12	新しい時代の学校システムを考える―大学と地域連携の新たな課題―	[2018 年 3 月]	300 円
東北－13	新しい時代の学校システムを考える―大学入試改革の理念と実態―	[2019 年 3 月]	300 円
東北－14	新しい時代の学校システムを考える―戦間期の教育政策変容から現代を問う―	[2020 年 3 月]	300 円
東北－15	新しい時代の学校システムを考える―教育と福祉の連携を問い直す―		

[2022 年 3 月]　300 円

東北－16　新しい時代の学校システムを考える
　―『令和の日本型学校教育』における教員研修の再検討―　[2023 年 3 月]　300 円

東北－17　新しい時代の学校システムを考える―小規模特認校制度の可能性と課題を問う―
[2024 年 3 月]　300 円

関東－1　学校での人権侵害としてのセクシャル・ハラスメントをどう防ぐか
[2006 年 8 月]　300 円

関東－3　中学生・高校生のセクシュアル・マイノリティの子どもたちと教育に関する研究・
　実践動向／男女共学制下のジェンダー平等教育―北関東諸県を中心に―
[2009 年 8 月]　300 円

関東－4　シンポジウム「環境教育の新たな展開と課題」　[2011 年 6 月]　300 円

関東－5　教員養成において教育学教育の果たす役割　[2012 年 8 月]　300 円

関東－6　スクール・セクハラ問題と教育学の課題　[2013 年 3 月]　300 円

関東－7　見えない学力格差の是正―子どもの放課後の学びの支援―
[2014 年 5 月]　300 円

関東－8　学校教育とセクシュアリティ問題―多様な性と教育にどう向き合うか―
[2017 年 7 月]　300 円

　*関東-2，9 は複写で頒布。次ページ参照。

東京－4　シンポジウム「教師教育改革を問い直す」　[2019 年 8 月]　300 円

中部－1　教養と学力　[2011 年 6 月]　350 円

近畿－8　災害の記憶と教育―阪神・淡路大震災の想起と追想をめぐる討議―
[2013 年 7 月]　300 円

近畿－9　私の教師生活４－戦後教育実践に学ぶ－　[2017 年 8 月]　300 円

近畿－10　私の教師生活 5―戦後教育実践に学ぶ―　[2018 年 6 月]　300 円

近畿－11　特別支援教育の現場における保護者と学校のズレはどこから生まれるのか？
[2019 年 4 月]　300 円

近畿－12　私の教師生活 6―戦後教育実践に学ぶ―　[2019 年 8 月]　300 円

中国－7　教育学研究の意味と課題を考える－日独の比較－　[2006 年 6 月]　300 円

中国－9　全国学力調査を教育の改善にどう生かすか／教育研究の細分化は何をもたらしたか
　（公開シンポジウム・研究会 成果報告書）　[2008 年 4 月]　300 円

中国－11　リスク社会の捉え直しと教育の課題　[2013 年 7 月]　300 円

中国－12　次世代の教師を育てる教員養成関連授業の可能性
　－教育学と教科教育学の対話と協働－　[2015 年 8 月]　300 円

中国－13　社会保障と教育の接続をめぐって　[2018 年 3 月]　300 円

四国－11　「日常」と教育理論－教育学的「実験」国家としての旧東ドイツ
[2017 年 6 月]　300 円

四国－12　シンポジウム報告書「教員養成改革の方向性」　[2017 年 6 月]　300 円
中国・四国－1　教育格差と教員養成の課題　[2020 年 4 月]　300 円
中国・四国－2　学校の日常が突然に引きはがされたとき
　－戦争、自然災害、パンデミック下の学校教育－　[2021 年 3 月]　300 円
中国・四国－3　ポストコロナの教育を展望する　[2021 年 11 月]　300 円
中国・四国－4　SDGs 時代の教育
　―教育・学習における変革・変容（transformation)にどう向き合うか ―
[2021 年 3 月]　300 円
中国・四国－5　子どもの多様性を包摂する保育・教育をめざして
[2023 年 11 月]　300 円

○そのほか資料コピー
　以下の資料は冊子が在庫切れのため、1 枚 10 円で資料コピーを頒布いたします。
複写-1　「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.1）　［2013 年 8 月］ 610 円（61 枚）
複写-2　＜日本教育学会・公開シンポジウム＞原発事故・放射能被災を学校教育はどう受け止めるか　［2014 年 3 月］　690 円（69 枚）
複写-3　東日本大震災と教育に関する研究（全体編その１）
　―子ども、園・学校は津波被災と原発災害にどう向きあったか、向きあっているか―
［2014 年 3 月］　1,730 円（173 枚）
複写-4　「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.2）　［2014 年 8 月］570 円（57 枚）
複写-5　東日本大震災の大津波被災とその後を子ども・教師・学校はどう生きているか
［2015 年 1 月］　420 円（42 枚）
複写-6　養護教諭が体験した東日本大震災
　ー地震と津波発生時、避難所運営と避難者ケア、学校再開後の子どもたちのケアと教育ー
［2015 年 2 月］　440 円（44 枚）
複写-7　東日本大震災とそれ以降における教育委員会や学校の状況に関する調査報告書
［2015 年 3 月］　870 円（87 枚）
複写-8　東日本大震災と教育に関する研究（全体編その 2）
　ー「3.11」以降の子ども・教師・学校の経験と実践・支援・政策・研究の課題ー
［2015 年 3 月］　2,510 円（251 枚）
複写-9　「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.3）　［2015 年 8 月］　480 円（48 枚）
複写-10（関東-2）　教育学 meets クィア・スタディーズ
　―<大学教育とクィア>に関する諸課題を考える―　［2008 年 3 月］　290 円（29 枚）
複写-11（関東-9）　平和教育研究のこれまでとこれから―日本教育学会の役割を考える―
　＊SOLTI の会員マイページで無料公開中　［2023 年 5 月］　220 円（22 枚）

【申し込み方法】

・下記申込先まで、E-mail または Fax にて希望する冊子の番号・記号と送付先住所をお知らせください。報告書送付時に、代金と送料実費をご請求しますので、郵便振替にてご送金ください。なお、請求書類が必要な場合は、申し込み時に種類と書式等をお知らせください。

・このリストは 2024 年 6 月現在のものです。

申込先：　日本教育学会事務局

電　話：03-3253-6630　　Fax：03-3254-0477　　E-mail：jimu@jera.jp

住　所　〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-15-2 クレアール神田 102

日本教育学会第 83 回大会プログラム

2024 年 8 月 29 日、31 日、9 月 1 日
大会校　名古屋大学／愛知工業大学
発行　日本教育学会第 83 回大会実行委員会
委員長　渡邉雅子

UCHIDA

未来の学習空間 **Future Class Room®**

「Future Class Room®」は、ICTを活用したオンラインと対面の効果的なハイブリッド環境で、国や地域を越えて知恵を共有しながら新たな価値を創出する協創空間です。

AV制御システム ── コデマリ ──

codemari

スクリーンやプロジェクター、照明やスピーカーなど、さまざまな機器が装備された空間では、複数の機器を扱うための知識が必要です。その複数の機器を、「タブレット端末」や声で操作するためのWEBアプリケーションソフトが codemari（コデマリ）です。タブレット端末が1台あれば**機器操作が苦手な人も、タブレット端末を使ってドラッグ＆ドロップで直感的に操作できたり、声で指示するだけで簡単に操作できます。**

Future Class Room® をスムーズに活用するために

複雑なAV機器を「タブレット端末」や声で

楽々操作

学校・大学等教育機関向け　必携・推奨端末EC販売をご支援いたします。

授業や学習で利用する、個人が所有する端末だからこそ、学校でもご家庭でも安心・安全にご利用いただけることが大切です。内田洋行では、学校・大学等教育機関向け 必携・推奨端末EC販売を通して、貴学の方針に沿った個人用端末の整備をご支援いたします。計画策定から販売、アフターサポートまでトータルでご提供いたします。

内田洋行が提供するサポートの主な特長は……

学校専用キッティング済みの端末をご用意

授業で使うアプリケーションのインストール、学校のネットワーク環境の設定等、学校様に合わせたキッティングを行った状態ですので、到着後すぐに授業でご利用いただけます。

専用ECサイトにて販売・選べるお支払い方法

専用ECサイトにて、ご家庭に直接販売します。支払い方法はクレジットカードとコンビニ払いから選択できます。

ヘルプデスクにて ご家庭からの問い合わせにも対応

生徒や保護者からの問い合わせに対応しているため、担当者様の負担を軽減できます。

「ウチダあんしん保証」にて メーカー範囲外の故障等にも対応

メーカーサポートの範囲外の故障対応や、盗難等にも対応した「ウチダあんしん保証サービス」をご用意しております。

全国で多数実績がございます ぜひお問い合わせください！

内田洋行 高等教育事業部

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25 東日本営業部 ☎03(5634)6441

大阪 〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2 西日本営業部 ☎06(6920)2493

たいせつにしたいプライバシー 10480001

「いい学校・いい教育・いい授業づくり」を支援します。

www.uchida.co.jp/education

大学における教員養成の未来
—「グランドデザイン」の提案　定価2,640円
●日本教師教育学会 監修
鹿毛雅治・勝野正章・牛渡淳・岩田康之・浜田博文 編著
未来に生きる子どもたちの学校教育を担う教師のあり方を学術的に検討する。

校長のリーダーシップ —日本の実態と課題
●浜田博文・諏訪英広 編著　定価3,300円
校長のリーダーシップ発揮を支え、促すための制度的組織的条件の在り方を追究。

現代アメリカにみる「教師の効果」測定
—学力テスト活用による伸長度評価の生成と功罪
●西野倫世 著　定価4,950円
「教師の効果」測定の理論・実践的動向の統合的把握を試み意義や課題を明らかに。

大学を問う —初期大学史研究会のあゆみ
●別府昭郎 著　定価3,190円
「大学史研究会のあゆみ」を紹介。「大学史研究」の歴史が垣間見える1冊。

早稲田教育叢書 42
『探究』型授業のモデルと実践
—日本中世を事例に
●高木徳郎 編著　定価2,530円
資料不足を補い探究的で掘り下げた授業のあり方を提案するための授業案を提示。

早稲田教育ブックレット
「大学のオンライン教育」をテーマにして開催された講演会報告を掲載。早稲田大学の事例などを収録。

30 憲法を学び、教える —教師教育の課題　定価1,100円
31 私学の教員養成を探る
—早稲田大学120年のあゆみと次世代への一歩
●早稲田大学教育総合研究所 監修　定価1,100円

「省察」を問い直す
—教員養成の理論と実践の検討
●山崎準二・高野和子・浜田博文 編　定価3,080円
教員養成の「省察」言説を相対化し、不可視化された問題状況を明らかに。

教師のためのセルフスタディ入門
—協働的な問いによる実践の改善　定価4,950円
●アナスタシア・P・サマラス 著／武田信子 監訳
セルフスタディ翻訳プロジェクトチーム 訳
世界的な教師教育の基本書が邦訳。研究と実践はどう結びつけられるのか。

セルフスタディを実践する
—教師教育者による研究と専門性開発のために
●齋藤眞宏・大坂遊・渡邉巧・草原和博 編著　定価3,630円
研究蓄積を形にした日本発「日本の教師教育」セルフスタディを探究した書。

実践・小学校生活科指導法
●田村学 編著　定価2,200円
生活科の理念や理論、授業づくり等を、豊富な実践例とともに体系的に解説。

SDGs時代の地理教育
—「地理総合」への開発教育からの提案
●湯本浩之・西岡尚也・黛京子 編著　定価2,310円
SDGs時代の新しい高校地理の授業を企画運営に資する資料・情報を提供。

パブリック・アチーブメント／シティズンシップ教育シリーズ
人生を拓き、社会を創るために、「地域」と「世界」のそれぞれから「とっかかり」をつかむテキスト。
人生を拓く・社会を創る —シティズンシップの学び
●池谷美衣子・田島祥・二ノ宮リムさち 編著　定価2,090円
地域から学ぶ・世界を創る —パブリック・アチーブメントと持続可能な未来
●二ノ宮リムさち・高梨宏子 編著　定価2,090円

〒153-0064　東京都目黒区下目黒３－６－１
http://www.gakubunsha.com
学文社
Tel 03-3715-1501(代)　Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

大正新教育の実際家
橋本美保編著　予価4070円

近現代日本教員史研究
船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著　4950円

質の認識としての音楽科カリキュラム
西園芳信著　5500円

子どもの社会的思考力・判断力の発達と授業開発
加藤寿朗・梅津正美・前田健一・新見直子著　3300円

レリバンスの構築を目指す令和型学校教育
關浩和・吉川芳則・河邊昭子編著　4180円

子どもの心理と教育内容の論理を結びつけた社会科授業
社会科の理念と授業を考える会編　3300円

子ども観と評価でみる学校教育史
松本和寿著　8250円

日本学術振興会の設立に関する研究
山中千尋著　11000円

社会系教科の評価をめぐる理論と実践
社会科の評価について考える会編　3080円

授業リフレクション研究による学びの考究
澤本和子著　7700円

子どもの権利をまもるスクールロイヤー
松原信継・間宮静香・伊藤健治編著　2750円

日本キャリア教育事始め
『日本キャリア教育事始め』編集委員会編　3300円

「共生」の教育創造に向けた〈関係形成〉〈理解・認識〉の内容と連関
金丸彰寿著　8800円

1958年小学校学習指導要領の改訂過程
澤田俊也著　9900円

動態的法教育学習理論開発研究
中平一義著　9350円

ゴーチエにおける芸術教育思想の特質
川上若奈著　9900円

小学校における学習規律に関する学級経営研究
笹屋孝允著　7150円

「子どもの論理」に培う小学校国語教育の実践研究
春木　憂著　5280円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729　FAX 03-3291-5757
風間書房
(URL) https://www.kazamashobo.co.jp
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

文献資料集成

〈学校から仕事への移行〉の形成

ー日本の制度・実践・メディアー

第Ⅱ期　学校職業指導成立期の諸相編　　全４巻

監修・解題＝木村 元（青山学院大学特任教授、一橋大学名誉教授）　解題＝丸山 剛史（宇都宮大学教授）

揃定価＝121,000 円（税込）　ISBN 978-4-86670-104-2　分売不可

学校と社会（仕事）へのつながりが転換点にある、いま、学ぶべき資料。

第1巻　文部省外郭団体の職業指導 － 大日本職業指導協会から職業指導協会へ
第2巻　戦前の学校職業指導実践
第3巻　重工業社会の到来と職業指導実践の模索
第4巻　各種学校の動静 － 文部省・東京府（都）

◇刊行済◇　文献資料集成〈学校から仕事への移行〉の形成　第Ⅰ期　制度・政策関係編　全5巻
揃定価121,000円（本体110,000円＋税）　ISBN978-4-86670-102-8　分売不可
〈学校から仕事への移行〉の母体ともいえる日本の学校の制度的基盤や性格を押さえる基本資料を収録。

クレス出版

〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町 14-5
TEL03-3808-1821　FAX03-3808-1822
http://www.kress-jp.com/
内容見本進呈

教師のための授業実践学

梅野圭史／林 修編著●学ぶ力を鍛える創造的授業の探究　子どもの学ぶ意志力を鍛え、自己の学習能力を自律的に高めていく授業のあり方とは。　３０８０円

感じてひらく子どもの「かがく」

溝邊和成編著　岩本哲也／坂田紘子／流田絵美／平川晃基著　子どもの「かがく」する心が育つための「諸感覚」を大切にした学びへのアプローチと実践例。２６４０円

リテラシー教育はどうあるべきか

樋口とみ子著●現代アメリカにおける概念の相克から読み解く　教育がもたらすのは既存社会への「適応」か、「変革」か。二項対立を超える道筋を探る。６６００円

なぜ英国の大学はキラキラして見えるのか

佐野壽則著●歴史・教育・研究・経営から解き明かす　英国人の気質等にも触れつつ、歴史・教育・研究・経営の分野について、英国の大学を丸裸にする。３５２０円

学び直しとリカレント教育

出相泰裕編著●大学開放の新しい展開　地理的開放・年代的開放・機能的開放の３タイプの事例から、大学開放のあり方を探る。　３５２０円

教育相談［第2版］

よくわかる！教職エクササイズ③
森田健宏／吉田佐治子編著　「生徒指導提要（令和４年改訂版）」に準拠。　２７５０円

大学生と教員のための学校教育心理学

沖林洋平編著　定番の理論や実験例を解説。最近のトピックも紹介した。２６４０円

インクルーシブな教育と社会

原田琢也／伊藤 駿編著●はじめて学ぶ人のための15章　３０８０円

肢体不自由児の心理

金森克浩／大森直也編著　基礎と特性、学校現場で生かされる知識を学ぶ。２７５０円

発達 178 特集 子どもの生活を問い直す

遊ぶ、食べる、寝る、環境、親・家族、地域など、保育・発達にかかわる諸問題を、子どもの暮らしの流れのなかで捉えなおす。　＊B５判美装120頁 １６５０円

［特集執筆者］秋田喜代美／大豆生田啓友／川田 学／遠藤利彦／荒牧美佐子／浅井幸子／池本美香／良 香織／秋山千枝子／砂上史子／野口孝則／鈴木みゆき／木戸啓絵／宮里六郎／鍋倉 功

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町１＊ 表示価格税込　目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

教育学年報
第３期
知的で自由な対話を活性化し
教育研究を切り拓く

＊最新刊８月末刊行

第 15 号
生涯学習
青木栄一 石井英真 下司晶
仁平典宏 濱中淳子 丸山英樹 編

【既刊好評】

11 教育研究の新章
下司晶 丸山英樹 青木栄一 濱中淳子
仁平典宏 石井英真 岩下誠 編
5000円（484頁、2019年刊）

12 国　家
青木栄一 丸山英樹 下司 晶 濱中淳子
仁平典宏 石井英真 編
3400円（328頁、2021年刊）

13 情報技術・AIと教育
石井英真 仁平典宏 濱中淳子 青木栄一
丸山英樹 下司晶 編
3600円（344頁、2022年刊）

14 公教育を問い直す
佐久間亜紀 石井英真 丸山英樹 青木栄一
仁平典宏 濱中淳子 下司晶 編
4600円（456頁、2023年刊）

中嶋哲彦・広田照幸＝編
教員の長時間勤務問題をどうする？
執筆者＝大橋基博・高橋 哲・田中真秀・中嶋哲彦・橋本尚美・浜田博文・広田照幸・前川喜平
◎研究者からの提案 〈全国の公立学校教員の深刻な長時間勤務問題の解決策〉 1600円

是澤博昭
赤本〈一九三八～一九四一〉
◎内務省児童読物統制・佐伯郁郎とその朋友 〈児童の文化統制から軍国少年少女を育成する少国民文化協会。推進した内務省官吏、児童文学者・心理学者、教育者たち――児童文化関係者の行動に迫る〉 3800円

前原健二
現代ドイツの教育改革
◎学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性 〈教員の働き方、学校の運営、学校制度の構成――三つの位相において戦後ドイツの教育はどこに課題を抱え、改革を進めてきたか。改革過程を教育制度の理論として描く〉 3600円

矢野智司・井谷信彦＝編
教育の世界が開かれるとき
執筆者＝秋田英康・朝岡 翔・池田華子・井谷信彦・岩井哲雄・辻 敦子・中村育子・広瀬悠三・藤井奈津子・宮崎康子・森田裕之・森 亘・門前斐紀・矢野智司・山内清郎・山本一成
◎何が教育学的思考を発動させるのか 〈近代教育の思考法を問いなおし、課題に応答する教育学的思考の新たな形を構築する試み〉 4400円

広瀬裕子＝編
カリキュラム・学校・統治の理論
執筆者＝石井英真・大桃敏行・苅谷剛彦・北村友人・小玉重夫・清田夏代・長嶺宏作・広瀬裕子
◎ポスト・グローバル化時代の教育の枠組み 〈戦後の教育と教育学を包括的にマッピングできるグランド・セオリーはどこに？ 変容しながら増殖する近代教育を摑まえる〉 2200円

劉 麗鳳
中学中退
◎中国農村中学校の生徒と教師のエスノグラフィー 3800円

福元真由美
都市に誕生した保育の系譜
◎アソシエーショニズムと郊外のユートピア 3500円

石戸典嗣
現代教育のシステム論
◎ルーマンの構図 2300円

林 潤平
自然愛をめぐる教育の近代日本
◎自然観の創出と変容の一系譜 3500円

高宮正貴
J・S・ミルの教育思想
◎自由と平等はいかに両立するのか 3000円

日本教育学会教育勅語問題ワーキンググループ編
教育勅語と学校教育
◎教育勅語の教材使用問題をどう考えるか 2400円

世織書房 〒220-0042 横浜市西区戸部町7-240 文教堂ビル3階 TEL045-317-3176／FAX045-319-0644
seori@nifty.com http://seorishobo.com 〈税抜〉

アメリカの授業料と奨学金研究の展開
小林雅之著 A5・五二〇頁・六八二〇円

ミネルバ大学の設計書
スティーヴン・M・コスリン、ベン・ネルソン編著
松下佳代監訳 A5・五二八頁・五七二〇円

ミネルバ大学を解剖する
松下佳代編著 A5・三二八頁・三五二〇円

公正で質の高い教育に向けたICT活用
卯月由佳・露口健司・藤原文雄編著 A5・二五六頁・二九七〇円

学校音楽文化論
笹野恵理子・学校音楽文化研究会編著 A5・三六八頁・四九五〇円

近代日本の教育博物館
高田麻美著 A5・二五六頁・五二八〇円

デンマークの多様性教育
市川 桂著 A5・一九二頁・三五二〇円

中国独立学院制度の発足・普及・変貌
潘秋静著 A5・二九六頁・五九四〇円

中国高等職業教育の展開
張潔麗著 A5・二六四頁・四九五〇円

韓国高等教育改革下の大学開放政策の展開
金明姫著 A5・二四八頁・四六二〇円

日本の大学と地域社会との相関システムの形成
稲永由紀著 A5・二四八頁・四九五〇円

大学職員の仕事経験の探究
大島英穂著 A5・二七二頁・四一八〇円

インサイドアウト思考【学びと成長の講話シリーズ4】
溝上慎一著 四六・一九二頁・一六五〇円

幸福と訳すな！ウェルビーイング論【学びと成長の講話シリーズ5】
溝上慎一著 四六・一九二頁・一六五〇円

子ども・若者の居場所と人間形成
萩原建次郎著 A5・一六八頁・一九八〇円

教育学へのいざない（改訂版）
鈴木和正著 A5・二二四頁・二八六〇円

東信堂直接注文お問い合わせ　アマゾン　楽天ブックス　honto

東信堂
〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
HP http://www.toshindo-pub.com
☎ 03-3818-5521 FAX 03-3818-5514
✉ toshindo.onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp（代表）
＊博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

生徒指導・教育相談を基礎から分かりやすく説明!

教師を目指す人たちのための
生徒指導・教育相談

●A5判・216ページ
●定価2,640円（本体2,400円+税）
●ISBN：978-4-7619-2992-3

教師を目指す人に読んでほしい1冊!

生徒指導提要の2022年の改訂内容を意識しながら、教育相談や生徒指導の基礎、体制、実際について分かりやすく示しています。
また、各章の最後では、章の内容に対する問い「考えてみよう」や関連書籍等の紹介「読んでみよう」を設けているので、新しい生徒指導について、より深く学ぶことができます。

編著 望月 由起（もちづき・ゆき）
日本大学文理学部教育学科教授
劉 麗鳳（りゅう・れいほう）
日本大学文理学部教育学科助手

世界の学校の教育制度から日常学校風景まで

世界の学校
グローバル化する教育と学校生活のリアル

●B5判・264ページ
●定価3,300円（本体3,000円+税）
●ISBN：978-4-7619-2907-7

激動する世界の中で、さまざまな知恵が内在する世界の学校を旅する。

世界の学校の教育制度から日常の学校風景までを1冊にまとめる『世界の学校』の3訂版。
今回の改訂では、31か国に取り上げる国数を増やし、より幅広く世界の学校を紹介する。

編著 二宮 皓（にのみや・あきら）
広島大学名誉教授、UMAP（アジア太平洋大学交流機構）アンバサダー

詳しくは、こちらをクリックして「学事出版」ホームページをご覧ください。

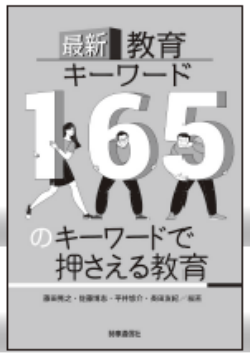
学事出版 千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL03-3518-9016 FAX 0120-655-514

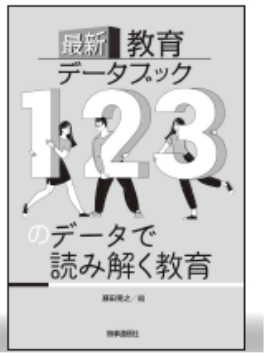
教育の「いま」をつかむために。時事通信出版局の本

教育の「いま」をつかむための2冊が、
最新のキーワード&データを加えて、
5年ぶりの改訂最新版!

最新 教育キーワード 165のキーワードで押さえる教育
●A5版・345頁 定価：本体2,500円＋税 ISBN：978-4-7887-1901-9

最新 教育データブック 123のデータで読み解く教育
●A5版・340頁 定価：本体3,200円＋税 ISBN：978-4-7887-1902-6





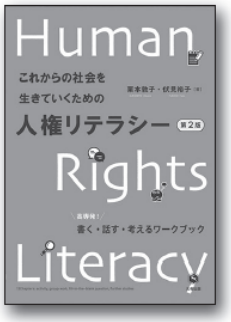
日本の学校現場で最も使用されている
教育支援アプリの1つ「ロイロノート」の
活用法をたっぷり紹介!

エキサイティングな授業が明日スグできる!
ロイロノートのICT "超かんたんスキル"
●A5版・128頁 定価：本体1,800円＋税 ISBN：978-4-7887-1852-4

理想の授業が明日スグできる!
ロイロノートのICT "超かんたんスキル"
令和の日本型学校教育編
●A5版・136頁 定価：本体1,800円＋税 ISBN：978-4-7887-1879-1

時事通信出版局 〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル8F
tel.03-5565-2155 fax.03-5565-2168 https://bookpub.jiji.com

新刊
これからの社会を生きていくための人権リテラシー（第2版）
：高専発！ 書く・話す・考えるワークブック
栗本敦子・伏見裕子 著 1400円＋税
「人権リテラシー」を学べる、学習者目線のワークブック。これまでの人権教育における蓄積を盛り込み、最新トピックもカバー。教材・研修等のテキストとして最適な一冊。



新刊
発達と教育
文教大学 教育学部発達教育課程 編著 2500円＋税
子どもの発達と教育を学びや育ちの場の具体的実践に焦点を当てて、その課題と可能性を広く深く論じた充実の書。文教大学教育学部発達課程設置時の全専任教員が参加執筆。

【大好評】実践につながるシリーズ

新刊
実践につながる生徒指導・キャリア教育
黒田祐二・清水貴裕・永作稔 編著 2200円＋税

新刊
実践につながる道徳教育論
藤川信夫 監修、國崎大恩・Kim Mawer 編著 2400円＋税

実践につながる教育原理
國崎大恩・藤川信夫 編著 2200円＋税

新刊
教師と学生が知っておくべき教育原理
村瀬公胤・武田明典 編著 2300円＋税

教師と学生が知っておくべき教育方法論・ICT活用
武田明典・村瀬公胤 編著 2200円＋税

新刊
子どもを応援するための特別支援教育
曽山和彦 編著 2400円＋税

新刊
［改訂版］障害のある子どもへのサポートナビ：特別支援教育の理解と方法
松浦俊弥・角田哲哉 著 2100円＋税

これからの特別支援教育：発達支援とインクルーシブ社会実現のために
長崎勤・吉井勘人・長澤真史 編著 1700円＋税

みんなで考える特別支援教育
梅永雄二・島田博祐・森下由規子 編著 2600円＋税

学びが生まれる場の創造：教育方法・ICT活用論
中橋雄 著 2300円＋税

北樹出版 〒153-0061 東京都目黒区中目黒 1-2-6 TEL：03-3715-1525 FAX：03-5720-1488 URL：http://www.hokuju.jp E-mail：eigyo1@hokuju.jp（価格は税別）

有斐閣 出版案内 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 https://www.yuhikaku.co.jp/ （表示価格は税込）

2024年新刊
新しい時代の教職入門 第3版
秋田喜代美・佐藤学 編著 有斐閣アルマ 四六判 定価2090円

2023年改訂！
新しい時代の教育課程 第5版
田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著 有斐閣アルマ 四六判 定価2200円

教育学をつかむ 改訂版
木村元・小玉重夫・船橋一男 著 テキストブックス［つかむ］ A5判 定価2420円

ワイノット y-knot シリーズ（各四六判）
生きた学問を学ぶことは，社会を知ること。

これからの教育学
神代健彦・後藤篤・横井夏子 著 定価2090円
＊ウェブサポートも充実（学生用／先生用）：Q&A、導入動画、文献、コラム等補助教材を提供

これからの教育社会学
相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子 著 定価2310円

詳細はこちら

有斐閣ストゥディア シリーズ（各A5判）
コンセプトは，①考える力を養おう／②自分から学びを深めよう／③なおかつコンパクト！

問いからはじめる教育学 改訂版
勝野正章・庄井良信 著 定価2090円

教育政策・行政の考え方
村上祐介・橋野晶寛 著 定価2310円

問いからはじめる教育史
岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大 著 定価2420円

■吉田敦彦・河野桃子・孫 美幸 編著
A5判上製292頁 税込4950円 ISBN978-4-326-25176-6
教育とケアへのホリスティック・アプローチ 最新刊
——共生／癒し／全体性
「ホリスティック」という概念や歴史、最新動向等に関して多角的に論じる。

■恒吉僚子・藤村宣之
四六判上製320頁 税込3520円 ISBN978-4-326-29933-1
国際的に見る教育のイノベーション
——日本の学校の未来を俯瞰する
日本と海外の教育施策や授業実践について、その特徴を捉えて比較分析する。

■東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 編
A5判上製288頁 税込3300円 ISBN978-4-326-25174-2
パネル調査にみる子どもの成長——学びの変化・コロナ禍の影響
休校やICT関連の環境変化が子どもたちの生活や学びに与えた影響とは何か。

■中西啓喜
四六判上製296頁 税込3960円 ISBN978-4-326-29936-2
教育政策をめぐるエビデンス
——学力格差・学級規模・教師多忙とデータサイエンス
教育政策について、エビデンスに基づき議論することの有用性と課題を論じる。

■P・V・ロメル
A5判上製472頁 税込7150円 ISBN978-4-326-80064-3
「田舎教師」の時代
——明治後期における日本文学・教育・メディア
明治後期の学校教師と文学の関係を、教育雑誌や田山花袋の作品から分析する。

■佐藤隆之・上坂保仁 編著
A5判並製240頁 税込2530円 ISBN978-4-326-25170-4
市民を育てる道徳教育
「市民」が生活で直面する問題や課題をどう生かすかを考えるためのテキスト。

■小山静子
四六判上製368頁 税込3850円 ISBN978-4-326-65441-3
高等女学校と女性の近代
女性が高等女学校で教育を受ける意味とは何だったのか。史料を繙き描出する。

■西川 開
A5判並製212頁 税込3520円 ISBN978-4-326-00060-9
知識コモンズとは何か——パブリックドメインからコミュニティ・ガバナンスへ
最新の知識コモンズ研究の展開を論じる、情報政策・図書館情報学の基本書。

■D・ボーデン・L・ロビンソン／田村俊作 監訳／塩崎 亮 訳
A5判上製480頁 予価7150円 ISBN978-4-326-00061-6
図書館情報学概論 第2版——記録された情報の力
最新の情報管理・情報政策、デジタルリテラシー等を詳説したテキストの第2版。

＊表示価格は10％税込

勁草書房（けいそう） https://www.keisoshobo.co.jp
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854